



R.I. 75周年記念

横浜緑R.C.10周年記念誌

横浜港北ロータリークラブ

〒223 横浜市港北区綱島西二丁目一六

電話(045)五二一十五一五一一番
横浜銀行綱島支店内

YOKOHAMA MIDORI R.C.



四つのテスト
言行はこれに照らしてから

- 1 真実かどうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるかどうか

目 次

ロータリーの綱領	1
序 章	2~6
ガバナー、特別代表	7
認 証 状	8
記念式典式次第	9
祝 詞	10~11
挨 拶	12~15
記念事業	15
式 典	16~17
ダーゲット（R.I.会長）	18
ターゲット（歴代会長）	19
チャーターナイト	20
初代～9代 ポートレート	21~39
組織表	40~41
会員入退会状況	42~43
会員名簿	45~48
記念講演	50~58



R.I.会長 ジェームス L.ボーマーJr

“LET SERVICE LIGHT THE WAY”
奉仕の灯で道を照らそう



ロー タリ ー の綱 領

ロータリーの綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成するにある：

1. 奉仕の機会として知り合いを拡めること；
2. 実業及び専門職業の道徳的水準を高めること；
あらゆる有用な職業は尊重されるべきであると云う認識を深めること；そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること；
3. ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
4. 奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的な親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること。

国際ロータリーになるまで

『1900年12月31日のニューヨークの夜は冷たい湿った天候であった。角笛を吹き花火を上げて、この20世紀の最初の新年を迎えるとしている幾万ともしけぬ人々、その中の一人として、今では信じ難いかもしけぬが、映画のトーキーを聞いたものは無かった。ましてラジオのプログラムに耳を傾けた者、テレビのショーに眼をかがやしたもの、飛行機で旅した者、ボイスカウトのパレードに加わった者、原子力解放について読んだ者、国際連合について聞いた者などむろん一人もない。』これは“ROTARY FIFTY YEARS OF SERVICE”と題して国際ロータリーが1955年に発行したロータリー50周年記念誌の書き出しである。

鐘が鳴った。そして19世紀が終り20世紀が始まった。その2年後、ノースカロライナの海岸でライト兄弟 Wilbur and Orville Wright が、はじめて飛行機で852フィートを飛び、イスのチューリッヒでは、1905年アインシュタイン Albert Einstein が相対性原理を発表したが、それが一つは地球を小さいものとしてしまった航空機発達の第一歩であり、また一つは、人類の第3の火といわれる原子力解放の端緒であるとは、何人も気付いてはいなかった。

それらとほぼ時を同じくしてロータリーは生まれた。

ロータリーの発生はディアボーン街 Dearborn Street の奇跡ともいわれているが、決して劇的なはじまりではなかった。

1905年2月23日といえば、東洋では日露戦争が戦われ、日本では、明治もすでに38年、そして、その日から15日後には奉天会戦、3ヶ月後には、日本海海戦で日本の勝利が決定的となつた日であるが、その23日の夜、アメリカ合衆国シカゴのディアボーン街のユニティ・ビル Unity Building にあった鉱山技師のガスターバス・ロー Gustavus Loehr の事務所に、仕立屋のハイラム・ショーレー Hiram Shorey と弁護士のポール・ハリス Paul Percey Harrls および、石炭商のシルベスター・シール Sylvester Schiele の主客4人が落ち合つた。

そこでハリスは、かねて繰り返していたその主張『実業人も必ず心からの友人になれる』をまた熱心に説き、『まず職業の違う者が定期に集ったら』と言つた。

一つの職業から一人なら競争もないというので、みなようやく賛成した。

ショーレーは、ひそかに新しい友人ができたら、さっそく新しい服をつくらせようと胸算用したし、シールは、われわれは他人の福利ということも考えねばならぬと言つた。

このようにしてポール・ハリスの孤独に堪えられぬ心情から生まれた構想と、その粘り強い意志、そしてそれに応じた3人の同意がここにロータリーを生んだのであった。

翌日ハリスは印刷屋のハリー・ラグルス Harry Ruggles に賛成を求め、不動産屋のウィリアム・ジェンセン William Jensen も加わり、3月9日シールの事務所にクラブを置き、3月21日シールを会長とし、ジェンセンが幹事、ショーレーが記録係、そしてラグルスが会計ということで、ともかくクラブの形だけは整えられた。

この6人は、いずれも生まれ故郷を遠く離れてシカゴへ出て来ている、互いに知り合はぬ「路傍の人」であったが、いずれも常に家郷を思い友情に飢えていたので、この集まりもはじめはただ友情を深め、互いの仕事を助け合おうというに過ぎなかつた、

クラブの名も、はじめは「ブースター」 “Booster” といわれていたというが、やがて各自の仕事場を見聞きするため会合を回り持ちにし、会長や役員も一年ごとに回り持ちにしていたところから、「ロータリー」 “Rotary” と名付けられ、隔週1回、会合して新聞記事を読み合つたり、ラグルスが歌をうたうこと始めたりしていたが、後に会員も増してきて、食事を共にということになると、回り持ちも不便となって、会合にはレストランが用いられ、1905年6月の第2木曜日にシャーマン・ハウス Sherman House で開かれた。

最初の定款が出来たのは、1906年1月で、(1)会員の職業上の利益の増進、(2)親交と社交のクラブに普通付帯する望ましい事柄の増進、をその目的としていたが、その年のうちに、(3)シカゴ市の最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りと忠誠の精神を鼓舞することが加えられた。

ポール・ハリス自身は2年後まで会長になるのを遠慮していたが、クラブを常にはつらつと動かして行くためには工夫が必要だといって、会員資格を一年ごとに切り、その成績で次の会

員をきめることにしていたが、間もなく欠席を4回以上続けるか、半年間の出席率が60%に満たない時には会員資格が失われるにかえられた。

この回り持ちと1業1人制とはロータリーの専売のようにいわれているが、このようなアイデアは、古くはソクラテス Sokrates、キケロ Marcus Tullius Cicero の昔からあって、近くは17世紀のはじめ、ロンドンに会員が交互に招き合って会合するクラブが、しかも「ロータ」と名付けられてあつたし、18世紀の後半には、『ローティション・クラブ』というのがあって、毎週集会をやっていたという。

また18世紀のはじめにあった『2ペニー・クラブ』は、同じ職業の者は会員にしないとして1業1人を規約にしていた。

またフィラデルフィアに Benjamin Franklin がつくった『ジャンツ・クラブ』は、これまた職業別会員制で、会員の友好と向上とをはかって40年も続いていたといわれている。

しかしながら、「これらのものとロータリーの違うところは、奉仕の理想を追求する熱意のはげしさと強さにあるのだ」とポール・ハリスは強調している。

さらにポール・ハリスは、その著 “This Rotarian Age” (『ロータリーの理想と友愛』米山梅吉訳) の中で、「ロータリーのごとき運動の発芽期としては、20世紀の初頭ほど絶好の時期はなく、同時にそれを育成して確固たる方向を示すべき土地としては、この攻撃的な男性的な、しかもエセ理屈の多いシカゴの地ほど適切な都市は無かったと述べている。

ポール・ハリスは2年後によくやく会長となつたが、この時はじめて、同様のクラブを他の都市にも持ちたいと考えた。

そして、1908年に同じ目的規約を持つクラブがカリフォルニア州サンフランシスコにできたが、これは、まったく若い法律家のホーマー・ウッド Homer Wood の努力によるものであった。

ホーマー・ウッドは、その翌年にはオーカーランドに、引続きロサンゼルス、シアトル、また、さらにニューヨーク、ボストンなど、東海岸におけるロータリークラブの設立にも手を貸している。オーカーランドのクラブが週週1回の規則正しい午餐会をはじめて規約できたのであった。ロータリーの記章も、1906

年に馬車の車輪が用いられたが、1912年に歯車の形が採用せられ、1924年に、24枚の輪歯を6本の軸、および一つの楔穴を有するものが制定せられた。

1908年1月、チェスリー・ペリー Chesley R. Perry がシカゴクラブに入ってきたが、彼は1910年から1942年に70歳でやめるまでの32年間、国際ロータリーの幹事、事務総長をつとめたのであった。

ポール・ハリスは、「もし、私がほんとにロータリーの設計者と呼ばれるものならば、チェスリー・ペリーこそほんとにその施工者と呼ばれるべきものである。」と言っている。

このチェスリー・ペリーが司会して、14クラブの代表者を含む60名がシカゴのコングレスホテル Congress Hotel に集まって、全米ロータリークラブ連合会 National Association of Rotary Clubs ができたのが1910年8月であった。その時、ロータリークラブの数は16で会員数もわずか1,800名であった。

この連合会の会長はポール・ハリスで、幹事はチェスリー・ペリー、そして、事務所はペリーのいたファーストナショナルバンクビル First National Bank Building に置かれたが、ここがそれから長い間、国際ロータリーの本部となったのである。

この年はじめて国境をこえて、カナダのウィニペックにクラブが生まれ、翌1911年には、大西洋をこえてイギリスのロンドンおよびマンチェスターにつくられたが、同時にアイルランドのダブリンとベルファストにクラブがすでに結成されているのを知った。

1910年の末、ポール・ハリスは「合理的ロータリー主義」と題する論文を書き、それにペリーが二つ三つの記事を加え、8頁のタブロイド型の “National Rotarian” をつくり、1911年1月に配布したところ、たいそう好評で増刷し、さらにポートランド大会への出席勧誘の記事をのせた第2号を出したが、それによってこの大会でロータリーの機関誌を発行することが決議された。かくて1912年9月 “The Rotarian” と改名し、毎月発行して今まで続いているが、17年間はチェスリー・ペリー事務総長自ら編集に当っていた。

1912年ミネソタ州ドゥルースにおける大会には、41クラブから代表が集まり、カナダからも出席があって、名称がロータリークラブ国際連合会と改められ、グレン・ミードがその初代会

長に選ばれ、ポール・ハリスは名誉会長に推された。

その時のクラブ数は50、会員数は5,000人と称せられ、ここではじめてディビジョンが設けられ、アメリカ合衆国に5、カナダに2、グレイトブリテン及びアイルランドに1と計8地区が置かれた。そして1915年7月、その時の186クラブをさらに19地区に分割し、番号をつけてそれぞれに地区ガバナーを置いた。

東京クラブ創立

三井銀行の米山梅吉は、男爵目賀田種太郎を団長とする財政調査団に加わり、1918年の正月をテキサス州ダラスで迎えた。

ここには、三井物産の福島喜三次がいて、部下のドイツ人ウィリアムが、1914年戦争で帰国した後をうけて、ダラスロータリークラブの会員になっていたので、米山梅吉はここではじめて福島喜三次からロータリーについて聞き、大いに心を動かされて帰ってきた。

1920年1月、福島喜三次も日本へ帰り、ダラスクラブから日本にもロータリークラブをつくるように勧められ、シカゴの本部からも同年6月までにつくる許しも受けていたが、期限内にはできなかったので、シカゴからパシフィックメイルスティームシップ会社横浜支店長のウィリアム・ジョンストン William L. Johnstone を応援に加えられ、改めて福島喜三次に委任してきた。

アメリカ合衆国のように開拓された土地に新しく生まれた社会では、それを健全に守るために、何よりもフェローシップ(仲間意識)が大切であるが、そのフェローシップをもとにして、アメリカに生まれたロータリーに対して、長い封建鎖国の時代から明治維新を経て、大正デモクラシーといわれてもほんのうわべだけで、旧態依然たる当時の日本人々にとって、その精神はもとより、その組織運営についても、これを理解し受け入れることはまことに容易ではなかった。

ようやく1920年8月、銀行クラブに18名を集めて説明し、9月1日、それが発起人会を開いて準備し、10月20日、銀行クラブで、24名で創立総会を開き、東京ロータリークラブが誕生したのであった。翌1921年4月1日付で、登録番号855をもって承認せられた。



伊藤 茂 第259地区ガバナー



特別代表 山崎卯一

● 認証状

横浜緑ロータリークラブ

認証状



バナー



国際ロータリー創立75周年記念
横浜緑ロータリークラブ創立10周年記念

合同祝賀式典

昭和55年3月22日
於 桐蔭学園体育館

登録	13:00より	
記念式典	14:00~15:00	司会進行 十周年記念副委員長 田辺政雄
点鐘		クラブ会長 山下栄藏
開会のことば		75周年記念実行委員長 小林安雄
国歌齊唱		
ロータリーソング(奉仕の理想)		
来賓の紹介		クラブ会長 山下栄藏
会長あいさつ	"	"
物故者への黙禱(高橋正文、鈴木憲一、戸田修)司会者		田辺政雄
75周年並に10周年記念事業報告		社会奉仕委員長 内野晃
記念品贈呈	ロータリー財団	山下栄藏
	米山奨学金	
	其の他	
表彰	クラブ会長	山下栄藏
来賓祝辞	第259地区ガバナー 伊藤茂	梅田兼光
	緑区長	石川治道
	横浜緑RC元会長	三沢君夫
閉会のことば	10周年記念実行委員長	山下栄藏
点鐘	クラブ会長	
————休憩30分————		
講演議題	15:30~17:30 紹介者 「己れに克つ」 講師 薬師寺管主	森善助 高田好胤師
————休憩30分————		
祝宴	18:00~19:00 司会進行 親睦委員長	岩沢幸男
開宴のことば	S.A.A.	岩岡正
会長あいさつ	クラブ会長	山下栄藏
来賓のことば	第二分区代理	山本徳太郎
乾杯	スポンサークラブ会長	塚本信之
会食	(手に手つないで) 親睦委員長	岩沢幸男
合唱	萬才三唱	岩崎董正
閉宴のことば	親睦副委員長	赤柄忠昭

● 祝 辞



ガバナー 伊 藤 茂

只今ご紹介をいただきました伊藤でございます。

本日はこの晴れの式典にお招きをいただきまして御祝詞を申しあげる機会を与えられましたことを大変光栄に存じます。

さて、25年を周期としてお祝いする3節目のロータリー創立75周年の記念すべき年度、しかも日本のロータリー創立60周年、更に戦後国際ロータリー復帰、再建30周年という正に千載一遇の年度に当りましてクラブ創立10周年をお迎えし、横浜市緑区長さんをはじめ各界の名士の方々、ロータリー関係では山本分区代理さん、山崎特別代表、石川初代会長さんをはじめスポンサークラブ、近隣クラブの皆さん多数のご来賓のご臨席をいただきまして会員の皆さん、ご家族の皆さん更に地域の方々共々に厳粛な中にもこの様に極めて盛大に式典が開催されましたことを衷心よりお慶び申しあげますと共に御祝い申しあげます。

只今はロータリー創立75周年並びにクラブ創立10周年を記念しての事業の数々のご発表を感銘深く拝聴致しました。特にR.A.Cの提唱は今年度当地区における快挙であります。その他後世に残る素晴らしい数々の業績は当クラブのシンボルとして永久にその偉業を讃えられるものと信じます。ロータリー財団並びに米山財団に皆様の尊い淨財を記念としてご奉仕賜わりましたことに対しましても衷心より感謝し、厚く御礼申しあげます。

更にまた、只今表彰されました方々に対しまして心から御祝い申しあげますと共にロータリー創立75周年、クラブ創立10周年の歴史の中にその栄誉は刻銘に記されるものと存じます。

さて、当クラブの基礎をお作りになられました石川初代会長さんのクラブ創立時の心を心として歴代会長さんを中心にクラブをあげてロータリーで最も大切に致します“親睦”という伝統が立派に築かれておられますことに深く敬意を表するものでございます。そして創立後7年にして横浜田園ロータリークラブを誕生させ、その良きスポンサークラブの伝統が脈々として受けつがれ、素晴らしいクラブ造りがなされております。このことは当クラブ会員お一人お一人がロータリーにおける拡大の重要性をご認識され、ご支援、ご協力されました賜でございまして衷心より感謝申しあげますと共にそのご貢献に対しまして

● 祝 辞

讃辞を惜しまないものでございます。

10年前山崎特別代表、石川初代会長さんを中心にロータリーにかける意欲に燃え、奉仕の情熱を傾注してよりよきクラブ造りに精魂を傾けられた24名のチャーターメンバーの方々の息吹きがひしひしと伝わって来る思いが致します。そして現在も11名のチャーターメンバーの方々が在籍しておられますが、今日を迎えた感慨は一入深いものがあろうかと察するに余りがあります。

10年という歳月はロータリーの75年という歴史の年輪から見ました場合、歴史的には新らしいかも知れませんが、しかし10年一昔ということから考えますとやはり過ぎし日を改めて顧みるに値する貴重な年月であり、歴史であると申されようかと存じます。

当クラブの御祝いの意義も将来への決意を新たにすることを祝うという意味あいをもつものであるということに思いを致しますとき誠におめでたく存ずる次第でございます。

歴史は目に見えない日々の時の流れであります、必ずその時代時代を象徴するシンボルを残して行きます。そして、そのシンボルを形成するのは人々の営みであり、従いまして人々の営みの集積がシンボル化して歴史に残っていくものと存じます。

当クラブの10年間における奉仕活動のシンボルは枚挙にいとまのない程の素晴らしい数々の業績であり、特に青少年問題、インタークトクラブへの挑戦であります。また、クラブのもつその品位でもございます。

これは皆様の活動を象徴するものであり、他のクラブには見られない伝統の重みと格調高い風格を感じるものでございます。

そして、そのシンボルは今後も新らしく迎えられる会員の活動を奮起させる刺激となり、更に素晴らしい伝統が築かれ、受け継がれて行くものと信じます。

二度と巡りこないロータリー創立75周年と当クラブ創立10年にあたりまして改めて当クラブの基礎を築かれました先輩ロータリアン各位に感謝申しあげ、歴史を築いて来られましたロータリアン各位に敬意を表し、今後尚一層の皆さんのご健勝とご多幸、併せて当クラブの益々のご発展を祈念申しあげましてご挨拶と致します。



10代会長 山下栄蔵

本日は国際ロータリークラブ創立75周年、横浜緑ロータリークラブ創立10周年の記念式典を開催するにあたり、緑区長をはじめ、地域行政及び地域のリーダーのかたがた、ロータリー関係では伊藤ガバナー、山本分区代理をはじめ各クラブの会長及私共横浜緑ロータリークラブにゆかりのあるかたがた等、ようこそお出で下さいました。厚く御礼申し上げる次第であります。

又桐陰学園に於かれましては、此の大切の場所を提供して下さり、その上多数の御協力と御参加を戴き誠に有難う御座りました。

改めて「人と人とのふれ合い」、「ロータリークラブと地域とのふれ合い」等の意義の重さを感じさせられます。と共に本日の式典に御協力下された皆様方に厚く御礼申し上げる次第であります。

次に本日の式典の意義に付きふれさせて戴きます。

国際ロータリークラブは本年、1980年2月23日を以って75周年を迎えた次第であります。

今より75年前、1905年2月23日と言いますと日本では明治38年にあたります。此の年は日露戦争のさ中で、日本海々戦に於て日本の勝利が決った年でもあります。アメリカに於ては、経済恐慌で人心はすさまじく、犯罪は巷にみちている有様がありました。

此の頃のシカゴは「悪徳と腐敗の街」と言われ、そこに住む人達は「食うか、食われるか」「死ぬか、生きるか」でお互に反目し合い、警戒し合っている様な時代がありました。

これを憂えたシカゴの青年弁護士ポール・P・ハリスは、良い社会をつくる為には、「人の和を図り、世の中に奉仕する気持を、多くの人が持つ様になる事が大切だ」と考え、今より75年前の1905年2月23日の夜、石炭商のシルベスター・シェル、鉱山技師のガス・ローア、洋服商のハイラム・ショーレイ等、3人と相談して、此の理想をひろく人々に呼びかける為の第1回の会合を持ったのが此の2月23日であります。

最初はブスタークラブと呼んで居りましたが、その集会を順番に会員の事務所で持廻って開催されて居る事から、此の名を改め、数ヶ月後にロータリー・クラブの誕生となったのであり

ます。

これが次第に拡大され、1920年（大正9年）10月に日本で始めて東京にロータリークラブが創立されたのであります。

そのロータリークラブ活動の目的と致しましては、社会生活に於ける成功と幸福は、他人に対する思いやりと、他人を助ける事にある。として、会員各々の職業を通じての「奉仕の理想」を目的として居ります。

第一に、広く知り合いを求めて奉仕の機会を多く持つ。

第二に、各自の職業に誇りを持って、その道徳的基準を高める。

第三に、公私の別なく奉仕の理想を実行する。

第四に、理解と友情を国際的にも広く深める。

と言う4つの道をかかげての活動を行って居ります。

75年前、わづか4名に依って創立された国際ロータリークラブは、其の後、拡大を重ね、今日では全世界で154ヶ国に、クラブ数18,375クラブ、会員数853,000名余りの大きな組織となって居ります。

此の多くのロータリアンが国境を越えて、海外のロータリークラブと提携しての奉仕活動も行って居る次第であります。

次に、私達横浜緑ロータリークラブ10年の歩みにつきふれさせて戴きます。

今より10年前、港北区が分区され、新に緑区が誕生したのであります。その機会に、緑区にもロータリークラブを創立しよう、との事で、

本日御出席になって居られる、旧日研発条の石川さんが初代会長となり、

「それぞれ見づ知らずの異った職業人の集まりなので、会員が先づお互に親睦を深め、そこからロータリーを理解しよう」

「そして、奉仕の道を真剣に進もう」又、会員を増強しよう、との方針を打出して活動を行いました。

2代目会長は、現在不幸にして病いの為、退会されて居りますが、当時諸星インキの社長をされて居りました、秋田さんであります。

「会員間の友情を更に深め、奉仕の機会を多く持とう」「一人一人が身を持って善意を行動にうつそう」との方針で、奉仕活動を実施致しました。

3代目会長は、小富士産業の小林さんであります。

● 挨拶

「再考と反省に徹しよう」との方針で、此の年にはスイスのフラウイルロータリークラブと姉妹クラブの提携をして、当緑ロータリークラブから大勢スイスを訪問し、国際親善の実を挙げたのであります。

4代目会長は、ヨコハマクリニックの加藤さんであります。

「緑の町は緑区から」「ロータリーはホームクラブから」との方針で、此の年度には植樹運動も実施致しました。又、クラブとしての大きな行事として、分区のIGFを当桐陰学園の此の場所で開催されました。

5代目会長は、当桐陰学園の鵜川校長であります。

「例会を稔り豊かに」との会長方針で、毎週行われる例会を、充実した例会にする様努力されたのであります。

6代目会長は、東京リンクの名倉さんであります。

此の年度には、「生きたロータリー情報で愉快な例会」を方針として努力されました。

7代目会長は、中山恒三郎商店の中山さんであります。

「互に理解を深めよう」との方針で、此の年度には、鵜川さんのお骨折りで、桐陰学園の高校生を主体としたインターラクトクラブの誕生を見たのであります。又、スイスのフラウイルクラブから多勢のロータリアンが来日され、国際親善の実を挙げ得たのであります。

8代目会長は、三沢合資会社、青葉台ボウルの三沢さんであります。

「思いやりと友情」を会長方針として、此の年度には、緑区内に新しく緑ロータリークラブがスポーツクラブとなって、田園ロータリークラブの誕生となったわけであります。

9代目会長は、森善助会長であります。

「理解を深め、充実を図ろう」との会長方針により、創立間もない田園ロータリークラブの良き先輩クラブとして、その良きアドバイザー的役割を立派に果し得たのであります。

10代目会長は、私、山下であります。

良き先輩会長によって築き上げられた、此の立派な横浜緑ロータリークラブの名をはづかしめない様努力をし乍ら、「ふれ合いを大切に」との方針を掲げて、会員間のふれ合い、地域とのふれあいを大切に、又、他クラブとのふれあい、海外ロータリークラブとのふれ合い等を大切にし乍ら、その責任を果し得れ

● 挨拶

ば幸と心得て努力致して居ります。

此の10年の間に、国際奉仕活動としては、東南アジアよりの留学生、オーストラリアとの交換学生の世話を、桐陰学園の協力を受け乍ら実施してまいりました。又、私達緑ロータリークラブよりの推選に依り、ロータリー財團を通じて海外へ留学生も送り出しております。今年に入ってからは、韓国の地方都市のクラブと姉妹クラブとして提携すべく、現在その為の努力も致して居ります。

此の様にして、ロータリークラブでは会員間よりの「ふれ合い」にはじまり、国際間のふれ合いにも発展し、活動を行っております。今後共、皆様方の絶大なる御協力をお願いして、私のあいさつに替えさせて戴きます。

どうも有難う御座居ました。

75. 10周年記念事業報告

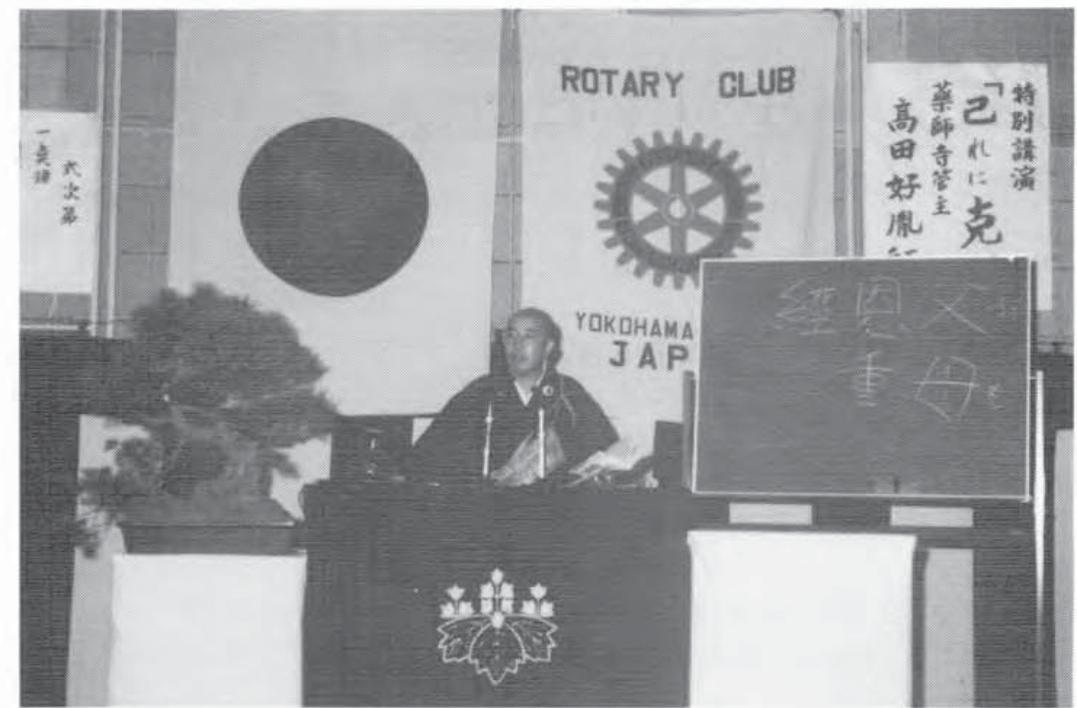
- 1) 3H計画へ協力、金一封寄附。
- 2) ローターアクトクラブ設立の準備を行っている。
- 3) 特別養護老人ホーム「ひかり苑」に対し、会員が寄附。クラブよりテレビ1台寄贈。
- 4) 田園R.Cとの協力で、中山駅より緑区総合庁舎への案内板を寄贈。
緑区政10周年記念にチャリティーバザーを行った。
- 5) 中里学園の園児にクリスマスプレゼントを贈る。
- 6) 「いのちの電話」のP.Rに協力。
- 7) 緑区視力障害者福祉協会に金一封を寄附。

● 記念式典



10周年記念式典 点鐘

● 記念式典



高田好胤師 記念講演



伊藤ガバナー 祝辞



山下会長より伊藤ガバナーへ



山下会長 挨拶



10周年 祝賀パーティー



● ターゲット

ターゲットは生きている！

■ 1969～70 REVIEW AND RENEW
(検討し、更新しよう)

R. I. 会長
ジェームス S. コンウェイ

■ 1970～71 BRIDGE THE GAPS
(隔りを取り除こう)

R. I. 会長
ウイリアム E. ウォーク

■ 1971～72 GOOD WILL BEGINS WITH YOU
(善意は先ずあなたから)

R. I. 会長
アンスト G. ブライトホルツ

■ 1972～73 LET'S TAKE A NEW LOOK/
(もう一度見直そう！)

R. I. 会長
ロイ D. ヒックマン

■ 1973～74 A TIME FOR ACTION
(今こそ行動のとき！)

R. I. 会長
ウイリアム C. カーター

■ 1974～75 RENEW THE SPIRIT OF ROTARY
(ロータリーの精神を振るい起こせ)

R. I. 会長
ウイリアム R. ロビンス

■ 1975～76 TODIGNIFY THE HUMAN BEING
(人間に威信を！)

R. I. 会長
インベッサイ. デ. メロ

■ 1976～77 "SERVICE" I BELIEVE IN ROTARY
(「奉仕」ロータリーを私は信奉する)

R. I. 会長
ロバート A. マンチェスターII

■ 1977～78 SERVE TO UNITE MANKIND
(全人類を結びつけるために奉仕せよ)

R. I. 会長
W. ジャックデービス

■ 1978～79 REACH OUT
(手をさし伸べよう.....)

R. I. 会長
クレム・レヌーフ

■ 1979～80 "LET SERVICE LIGHT WAY"
(奉仕の灯で道を照らそう)

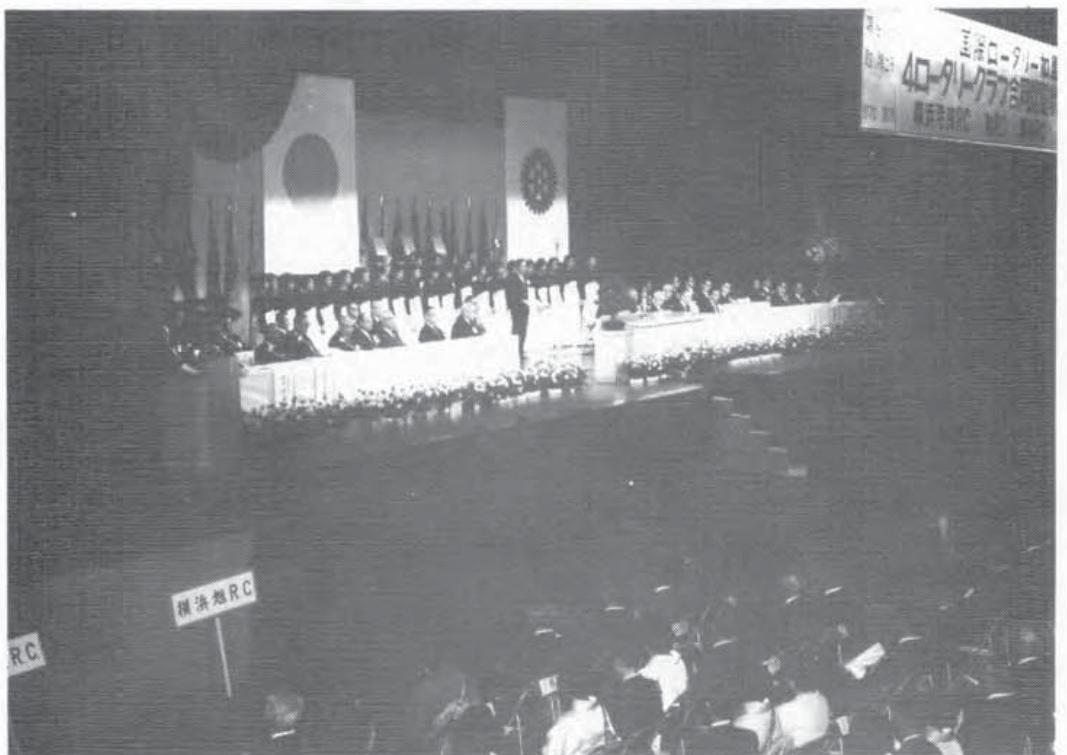
R. I. 会長
ジェームス L. ポーマーJr

● ターゲット

歴代会長

■ 1970 ～71	1. 会員お互いがロータリーをよく理解しよう 2. 奉仕の道を真剣に進もう 3. 会員数を増強しよう	初代会長 石川治道
■ 1971 ～72	1. 会員間の友情を更に深め、奉仕の機会を多く持とう 2. 本年は善意の年、1人1人が身をもって善意を行動に移そう	第2代会長 秋田実
■ 1972 ～73	我等ロータリアン (再考と友情に徹しよう)	第3代会長 小林安雄
■ 1973 ～74	緑の町は緑区から ロータリーはホームクラブから	第4代会長 加藤雅光
■ 1974 ～75	例会を稔り豊かに	第5代会長 鶴川昇
■ 1975 ～76	生きたロータリー情報で愉快な例会	第6代会長 名倉健二
■ 1976 ～77	互に理解を深めよう	第7代会長 中山恒三郎
■ 1977 ～78	思いやりと友情	第8代会長 三沢君夫
■ 1978 ～79	理解を深め充実を図ろう	第9代会長 森善助
■ 1979 ～80	ふれあいを大切に	第10代会長 山下栄蔵

● チャーターナイト



4 R.C.合同認証状伝達式



初代

初代会長 石川治道

緑ロータリークラブ創立10周年に思ふ

緑ロータリークラブが結成されて、はやくも10周年を迎え誠に御目出とうございます。心から御慶び申し上げます。

当時、緑区が港北区より分離されたのと軌を一にして、港北ロータリークラブをホストとして当クラブが誕生いたしました。港北ロータリークラブの初代会長を務めたロータリアンのベテラン山崎さんが、特別代表として当クラブの創立前後の御指導に当たられた御尽力に深く感謝申し上げる次第でございます。不肖私が当クラブの準備委員長、引き続き初代会長として、24名のチャーチメンバの御協力を得て始めて生ぶ声を挙げて10年を過ぎた今日、頭初を振り返り見て感慨深いものがあります。

社会発展の緒についた緑区には特有の雰囲気があり、この地域社会と新設のロータリークラブの活動を如何にして調和させて行くかを探索しながら、一方に於ては会員諸氏と共に世界ロータリー精神の涵養と発揚に苦心した思い出が、さまざまと浮かんで参ります。

皆さんも御承知の如く、ロータリークラブは単なる慈善団体でもなければ、又、宗教、政治、経済の団体でもない。其のモットーとする奉仕の精神とは何か、これを捉えることに可成り苦しんだ次第です。然しながら、この苦しみの体験は私個人にとっては、その後の人生観なり社会観に大きな感激と勇気を与えて下された事として、私のロータリアン生活は大変に幸であったと思います。

抑て、1970年代に始まった変動は、收まらぬのみか、むしろ1980年代に入つて其の変動幅が益々増大されつつあるやに見受けられます。全世界のロータリアンのもつ窮屈の願望は、人類の幸福と世界の平和を計るという以上、現在ほどロータリアンに課せられた任務は重く、その期待に添うべき努力が切実に求められているように考えられます。ロータリー活動から退いている私が、老婆心の一端から述べることを許されるならば、ロータリークラブは其の地域社会に於けるエリートクラスの方々の社会団体の形骸となぬよう、常に次元の高い奉仕の精神に徹せられん事を願望いたします。

終りに、緑ロータリークラブの皆様方の御健勝と、併せてクラブの御発展を御祈り申し上げて御祝いの言葉に代えさせて戴きます。



2代

2代会長 秋田 実

私達人間というものは、利己的な一面と、これに反した博愛的な一面とを持っています。その大小強弱というものは、人により多少の差はあります、こうした相反する面を持っている事は事実です。私達はともすると、この前者、即ち利己的な面が先行し勝ちになります。私はロータリーに入って、何が一番プラスになったかと云いますと、ロータリーの目的とする「社会生活における人間の幸福は、他人への思いやりと助け合いにある」とするこの精神に基づいて、広く知己を求める、各自の職業に誇りをもつ、奉仕の理想を実行する。国際的に理解と友情を深める、この四つの柱、この充実した鏡に自己を写し、自己反省の機会が与えられたことです。時々自分の行動に「まずいなあー、これでよいのだろうか」と反省することが出来るのは、ロータリーのお蔭であると思います。

私は日本人の社会生活には、この自己反省の機会が少ないと思います。特に現代は、一部の人を除き、宗教的にも、無宗教に近く、宗教的戒律による反省等は影をひそめつつある様です。明るい平和な地域社会をつくることは、このロータリー精神の鏡に自己を写し、自己を鍛錬し励すことによって生れて来ると思います。

至らぬ処がありましたが、皆様の御支援を得て大過なくすこし、クラブもスクスクと伸びております。この席をかりて厚く御礼申し上げます。

我々会員同志が力を合せ、協力し、理解し合うことが何と言ってもクラブを発展させる原動力かと思います。

私は先般京都の方へ旅行しましたが、その時、北山杉で有名な北山氏に遇いました。その時聞いた話ですが、実を播いて親杉に似た杉は10万本の中、1本だそうです。

そこで何とかしてもっと効率がいい様にと思い、日本国中を廻って、400種類のものを検討し、それをもとに研究の結果、挿木が良いと云う事がわかり、挿木をやると親と同じものが出来る。『親』と云う字を分解すると、「立木を見よ」になる。家族の人々はこの方法を、パテントをとって家代々の家宝にしたらと主張されたが、北山氏はそれをせず、村民に教えて、みんなが良くなる様にと、その根本は天の恵みと地の恵みと人の愛であると云って居られる。こう云う人がほんとうのロータリアンではないかと思います。



第100回例会



桐蔭学園 全国制覇（46年夏）



卓話（藤瀬五郎氏）



中山駅前へ時計塔寄贈



3代

3代会長 小林 安雄

横浜緑R.C.創立10周年を迎えるにあたり、会員の皆様方と共に、その喜びを分ち合える事が出来ました事を心より感謝致しております。

石川、秋田両会長の後を御引受けして、浅学菲才の私が会長に就任致しました頃は、クラブ創立3年目であり、時恰もクラブの揺籃期を脱しようとしている時期でもありました。クラブ創設期には、どうしてもクラブ内の拡大が必要であり、歴代会長もこの点鋭意努力され、会員数も発足時の略倍近くになっておりました。そこで私としましては、この辺でもう一度ロータリーの原点を見直し、確りと地に足を付けたものにしなければ真の奉仕活動は出来ないのではないかと愚考し、偶々時のR.I. ROY・HICKMAN会長のターゲット

「Let's take a new look!」（もう一度見直そう！）に倣ひ、

Reconsider & Reflect the ROTARY（ローターを再考し、反省しよう）
と云うターゲットを掲げて見た所であります。

創立以来我々は、ロータリーを懸命に勉強し、吸収してきましたが、丁度2年目頃と云うと、ロータリーが判ってきた反面、種々の疑問が生じて来る頃であります。日本ロータリーの創設者とも云う可き米山梅吉爵も、「ロータリーの不平には3種類ある。その1つは、倦きると云うこと。いっこうにつまらないと云って出席しなくなる。その2は、ロータリー活動が足りない云々。その3は、ロータリーは見えない処に仕事があり、目立たない処に妙味がある」と云っておられる所で、その様な意味合からも、この時期に確りとロータリーを見つめ直し、ロータリアンとしての自分を鏡に写し見る必要を感じたからに外ならぬものであります。幸にも私の杞憂を外に、それぞれ立派なロータリアンとなられ、今日の素晴らしい緑R.C.に発展してきた事は誠に御同慶に耐えません。

さて、この1年間、特に印象に残った事を2、3想い出してみると、先づ第1に、スイス・ローザンヌで開かれた世界大会に、当クラブより会員家族17名で参加し、その帰途、当クラブの姉妹クラブである、フラウヴルR.C.を親善訪問した事であります。人口僅か数千人の小さな町のR.C.でしたが、我々夫婦を夫々会員宅に分宿させて戴き、夜は盛大なパーティーを開いて下さり、

夜半過ぎ迄、時の経つのも忘れる位の心暖まる大歓待を受け、一生忘れ得ぬ想い出を残しました。そして、これが引金となり、後年フラウヴルR.C.より会員家族が大挙して来日され、大いに国際親善の実を挙げた事は御記憶に新たな事と存じます。又、ロータリー財団の寄附にも多大な貢献をされ、地区表彰を受けた事も特筆される事であります。その他、オーストラリヤから受入れた2名の交換学生の事等、想い出は数限りなくありますが、紙面の都合上割愛させて戴きます。

最後に、この10年間を振り返ってみると、誠に短い様であり又随分と永かつた様にも感じられます。昭和45年2月、我が緑ロータリー丸が船出をしてより今日迄、順風満帆の日ばかりではありませんでした。然しその都度、会長を中心全会員が一致協力して事に当たる事は、高く評価されるであります。勿論その間にロータリー丸の乗組員も随分と変られました。万能のを得ない夫々の御事情により、多くの会員の方々が船を降りられました。然し又、新しい優秀な会員が次々と乗船されて来ておられます。（因みにこの年度の最終例会の会員数41名中、22名の方々の御名前が現在ありません。）わがロータリー丸も乗組員は年々才々變るであります。ロータリーの奉仕の理想に向って、永久しへに力強く、正しく進んで行くものと信じて止みません。

終りに臨み、私はこのクラブでは勿論、ロータリーを通じ人生を勉び、又多くの良き先輩、良き友に廻り会へた事を神に感謝して欄筆する次第であります。



職場見学（武藤電機にて）



例会



期末懇親会

4代

4代会長 加藤 雅光



創立10周年を迎えて

私がロータリーに入らせて頂いて、18年になりますが、私程、有難いめぐり合わせに遭った男もいないのではないかと、ひそかな幸せを味っております。当時36歳で入会した私は、横浜でも若い方で指折りかぞえられる程でした。それ程、当時のロータリーが、権威と、経験に富んだ先輩の方の集まりであったとも云えましょうが、その中で、大先輩から大変可愛がられました。当時の港北ロータリーで、I.G.F.を受持った時、SAAでこれに参画し、緑ロータリーが分離するときは、親クラブの幹事としてそのお膳立てをし、第四代会長としては、当クラブ主催のI.G.F.を受持ち、田園ロータリーの創立には、特別代表をやらせて頂くと云う具合に、クラブの節目節目に、その催しに参画させて頂いたことは、ロータリアンとしての人生にとって、光栄この上もありません。そうした18年の経験を通してみると、ロータリーが、どう変り、どこへ行くのかと云う問題が、私にとって一番気がかりなことと思えてなりません。

紙面の関係で、詳しい論評をここで致すわけには参りません。I.G.F.でも、協議会でもこう云う次元の問題について、本質的な議論は一向になされておりません。併し、今や地区、各クラブで、こう云う問題を、真剣にとりあげ、20年、30年後のロータリーの進む道とその姿を議論せねばならないと思うのです。

ロータリーから枝葉を全部切り落して、エキスだけにしてしまった時、そこに残るものが、本質なのであります。そこで残るロータリー特有の要素は、簡単に申して、例会と出席と、会員選考だと思うのです。この三つがしっかりとしているクラブは繁栄し、又しっかりとしている限りロータリーは栄えるでしょう。私が18年のロータリー生活で、例会の卓話で得た感動と、卓話者から、じかに受けた強烈な印象は、今でも私の中に生き生きとして居ります。10周年記念講演の高田好胤氏は、10数年前には、港北の一例会のスピーカーでよばれました。良い卓話と例会をもつためには、会員がそれぞれの伝手を利用して、全力を傾けていたのでした。一週に一度うける感動こそが、マンネリ化を防いで、ロータリーに情熱をもたらすもとになるのでしょう。

出席の重要性は申すに及びませんが、これは、魅力ある、知性溢れる例会と裏腹のもの、車の両輪と云うべきものであります。私の長いロータリー生



中里学園児と子供の国で

活で、会員自身の問題についてのトラブルは、正直申して少くも数回以上はありました。その何れもが、その時々に衡に当った方々の良識ある処置によって、良い方向で決着されて来ました。会員選考のおそろしいような重要さと云うものは、現在の私達会員の、ロータリーに対する考え方や、位置づけが、20年30年将来の、クラブ乃至はロータリーの性格を決めてしまうことあります。私達が皆存じ上げている身近にいる或るロータリーの達人は、重要な役職をずっとやりながら、自分で紹介して入会させた人は、1~2人にすぎないと自ら告白されております。これは一概にはよい考え方とは申せませんが、彼は、推せんするおそろしさを強く感じておるのでしょう。然し幸なことに、ロータリーは、会員の教育組織が徹底しておりますから、それ程のおそろしさのために、ちゅうちょすることはよくないのかもしれません。

ロータリー、特に日本のロータリーは、年々無限に近い勢いで増加しております。では一体それは、どう云う形をとて、ゆきつく処はどこに、宗教の形とどう違ってゆくのか、などと云う疑問が、いつも私にあります。然し、私自身は勿論、現在のロータリーは、こんな簡単な問い合わせに対して、はっきりした回答が出来ません。よく云われて来たことですが、はっきりと結論が出せないのがロータリーで、出せなかったからこそ、75年も隆盛をつづけたのだと云うことです。果して、いつまでこのような曖昧さで通してゆけるでしょうか。

会長経験者としてここに執筆を依頼された私は、もっとロータリーを讃美し、勇気づける責任があるのかもわかりませんが、正直申して、75年を迎えたロータリーが、明らかに、その質的変革を迫られていると云うことを私は強く感じます。ロータリーとは、ロータリーはどこへ、そしてクラブとは、クラブはどこへ、それらを真剣に考えてみなければならない時期に、日本のロータリーはさしかかっていると云うのが、75周年、10周年を迎えた、私の偽らざる心境であります。



G公式訪問（アッセンブリー）



例会



5代

5代会長 鶴川昇

会長時代を回顧して

ホスト・クラブとしてのI.G.F.も終ったあとを受けて、五代目会長として私のやりましたのは、例会の充実ということでした。例会の充実というのは、出席、特に新会員の出席ということで、これは、クラブの内容、雰囲気をのみ込むために必須であると同時に、会員相互を知らなくては、ロータリアンになった意味はないと考えるからで、ただ、形式的に100パーセント出席を志すためではないと考えます。

構成メンバーに魅力を失った時には、私はロータリーを退会する心算です。日常のつき合い、対話の中からロータリーの魅力は出てくる訳で、出席なくしてこれをなしとげる事は出来ないという考えです。

もう一つ、クラブ・メンバーの卓話の充実、これが大事と思う。話の上手、下手とは別に、メンバーの生活体験がにじみでたものが貴重で、今の時代ですから、専門家の話はラジオ、テレビを始めとして、視聴のチャンスはいくらでもあります。しかし、会員の卓話となると、スピーカーの人柄と直結した話が聴け、その結果、その人の生き方はもちろん、人物についての理解が深まり、交遊が発展することになります。テレビ時代を作ったマクルーハンは、「イメージ・イズ・メッセージ」と称していますが、それは、その人がテレビの画面に登場しただけで、ある感じに打たれると解すべきかと思います。人柄の出ている話としては、亡き鈴木憲一会員の椿の話、四国行脚の話、陶器作りの話など、内容から言っても一流のものでしたが、縁クラブのメンバーとして、卓話として話されたことにいっそうの意味があったのではないかと思います。同じく、亡き戸田会員の満鉄時代の話、亡き高橋会員のツラギ沖？海戦の話など。現会員では加藤(雅)会員の胃カメラによる診断結果、戸田裕也会員のアメリカ留学時代の話、とくに研究条件の彼我の相違など、もう一回でも二回でもして欲しいという卓話です。できるだけメンバーの卓話をお願いする姿勢は、会員相互の親睦につながるのではないかと考えます。卓話者を外に求める労をいとうわけではありませんが、会員の持っている力を引き出そうという努力をしたつもりです。

私は物心ついてから、常に新しい道を歩む運命ばかり辿って来ましたが、ロ

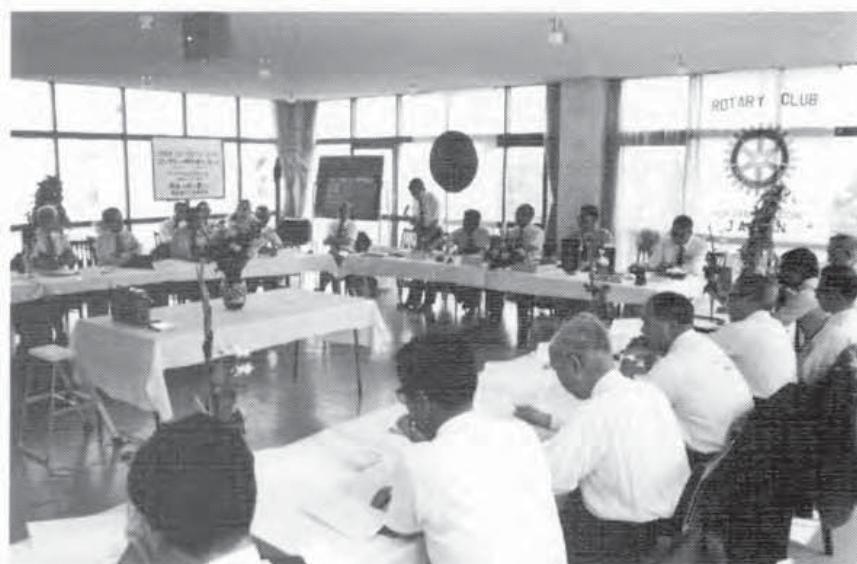
6代

6代会長 名倉 健二

思　い　出



ータリー五代目会長としてやりました仕事は、珍しく守成の仕事で、新たな道を引くよりも、日常の例会をいかに充実するかに焦点を絞りました。「例会を稔り豊かに」というターゲットを掲げましたのもその意図からです。ただ一つ新しいことといえば、私は緑クラブから生まれた初代の会長ということです。緑クラブの誕生とともにロータリアンとなった私に、この時期で会長が務まるということは、どなたでも会長が務まるという証左ではないかと思います。しかし、同時に緑クラブには、良き先輩、同輩が多く会長を助けてくれたことも忘れられません。その雰囲気に育てていかねばならないと思います。



G公式訪問（アッセンブリー）



公式訪問 例会

今は亡き高橋先生が入院加療中だったので、会長のお鉢が1年早く廻ってしまった。正直云って、ウォーミングアップ不足の登板には自信がなかった。

加藤4代会長の幹事をお引受けした時の約束で、先生のバックアップを頼りに、この大任を引受けた次第である。

石川初代会長は、私をクラブに推薦された恩人でもあり、終始慈愛の眼差しで蔭ながらご支援下さり、小林3代会長からは、わざわざ電話でご指導を賜った。加藤先生からの怪情報も大変役立ち、鶴川5代会長のすばり直言も懐かしい。保土ヶ谷クラブでのゴルフコンペで初優勝した時、秋田2代会長からは温情溢れるご叱声を賜った。

時のガバナー上野さんは、「真心の握手、通い合う心」でロータリーに熱情を傾けた方で、あの強い握手で私の手が痺れた。そこで私も、ビジターロータリアンと親しく握手を交わし、女子奨学生や会員ご家族方の軟かい手も握らせて頂き、思い出に花を添えて下さった。

新会員の入会式では、日蓮聖人の三種財宝「藏の財、身の財、心の財」を拝読して「心の財を蓄えて下さい」と結んだものである。平穏な1年ではあったが、失敗も多く、今となっては懐かしい思い出である。

粉間分区代理（横浜鶴見北R.C.）のご挨拶に先立って、直前分区代理の阿部さん（横浜旭一鶴峰R.C. 物故会員）が長々と得意の情報を流したため、私の年初の挨拶もできず、あと味の悪いスタートであった。

クリフサイドでの家族ぐるみクリスマスパーティーも懐かしい思い出である。「貧者の一灯」も会場が広すぎて、「皆さんの小さな善意が世界を明るく照らします」とテーブルの暗いキャンドルに向って自信なく訴えた。

年が改まって1月、私と武藤幹事は、I.G.F.の打ち合わせに出席した。粉間分区代理の「全員登録」の要請は、タテマエを通そうとする私の性分では、全員出席要請に説得力を欠いた。全会員が登録料を払えば分区代理の顔が立つし、ホンネもまかり通るI.G.F.である。だが、再三の要請もタテマエにこだわる私には通用しないで、我がクラブのみが全員登録を果たさなかつたのである。

クラブが発足して早や10年。ひと通りの奉仕活動を経験した私も、間もなくシニアのお仲間入りをするが、ますます健康に留意して、若い会員の皆さんと

一緒にロータリー活動をつづけるつもりである。

ここに改めてクラブ創立10周年のお祝いの詞を申し上げるとともに、亡くなられた会員の方々のご冥福をお祈り申し上げます。



1976. 6. 30 横浜緑ロータリークラブ例会 於 起雲閣



新聞少年に感謝と激励



クーン氏を迎えて



7代

7代会長 中山 恒三郎



今までの歴代会長は、会長自身が会員全員をどんどん引っ張って行くような個性の強い方々ばかりでした。私は私なりに自然にまかせるやり方でまいりました。自然は又よいもので、昔、木曾の檜がよその檜よりよいといわれるのは、山の奥で木を切り倒しますと、木曾川の上流からいくつかのダムを作り、そこに約1年間水づかりされ、適当に下流に流され、最後に市場につきます。この間に木の中に含まれている水溶性の物質は全て溶かされ、材木になる時には狂いのない名木になります。これが森林鉄道などが出来た昨今の檜は、やはり狂いが多いと云はれております。この様に、世の中がひらけて近代化されて、はたしてよかったかと思うことがあります。ロータリーも、あまりがみがみやらなくても大筋からはずれなければ適当に楽しみ乍らやってもよいのではないかと考え、その様にこの一年間やってまいりました。

クラブ運営の目標を、「互に理解を深めよう」「職業を通じて、ロータリアンの眞髓を發揮する」とし、目新しいことを計画するより、今まで歴代会長の敷かれた路線を、ひた走りながら精神面で会員が一層強くスクラムを組んで、一つ一つ納得のいくまで考えた上で、地道な活動を積み上げていくことを願って一年を経過しました。

幸に会員諸氏の理解と協力を得て、その熱意は四大奉仕部門にそがれ、ロータリー精神を随所に發揮し、活動を展開することによって、実りの多い一年であったことを嬉しく思います。

ことにスイスのフラウェル・ロータリークラブからの訪問については、国際奉仕委員、親睦委員はもとより、全会員及び夫人まで含めて、クラブが一丸となって歓待し、国際親善の実をあげ得たことは、多忙であったが今となっては、さわやかな思い出のひとこまとなりました。

又、桐蔭学園にインターラクトが発足し、創立一年目の努力を続けておりました。この様に相当な成果を挙げることができたのは、偏に会員各位の心からの協力の賜で感謝に堪えません。

然しながら、ロータリーの道は広く、且つ深い、本年より来年と、歳を経る毎に充実した活動と成果を願っております。



スイス フラウェルR.C.より来日（開東閣にて）



歓迎パーティー



8代

8代会長 三沢君夫

国際ロータリー創立75周年と併せて、当クラブが10周年の年を迎えた事は誠にご同慶の至りであります。唯この慶びを私達の大先輩である、鈴木、戸田両会員と共に味い得なかった事が残念でなりません。

さて、私の会長時代の事を回顧してみると、理事、幹事さんのご協力は勿論、会員皆様の温い友情と奉仕を忘れる事は出来ません。「思いやりと友情」をテーマにした例会、ミニ情報の徹底が出席率の向上を促し、奉仕の理想、実現へと邁進して行きました。

年間に於ける主な行事は次の通りです。

① クラブ拡大、新クラブ設立。

ロータリー精神を地域社会のより多くの人々に分ち与えることにより、熱心であった細谷ガバナー、岩崎地区拡大委員長、横山第二分区代理の熱意にほだされ、1978年5月27日、横浜田園ロータリークラブの創立総会を無事に終了させた事です。スポンサークラブ会長としてこの上もない喜びであり、今猶其の感激脳理から去らず、終生忘れ得ぬ人生の良き想い出となるでしょう。加藤特別代表、拡大準備委員7名の会員の格段なるご協力、並に全会員の温かいご支援の賜であり、委員会発足より2ヶ月有余にして25名の新会員（内4名移籍会員）獲得に成功したわけです。当縁クラブが発足した丁度8年目にして、新クラブ誕生となったわけです。

② インターアクトクラブ認証状伝達式

1977年11月23日、桐蔭学園高校インターラクトクラブのチャーターナイトを挙行いたしました。第259地区、九番目のクラブで会員総数60名です。当日は細谷ガバナー、横山第二分区代理、小林地区社会奉仕委員長、蓑島地区インターラクト委員長、其の地ロータリー関係者、並びに行政関係者、地元有志の皆様多数のご臨席を戴き、成行裡の内に式典を終了いたしました。

③ 神奈川県防犯協会連合会会長表彰

各種奉仕活動中、特に神奈川県防犯協会連合会会長、長洲知事より感謝状並びに金一封をいただき表彰を受けました。

更には、交換学生の受入、東京国際大会への参加、ホームホスピタリーへの積極的な協力、等々の奉仕活動、本当に会員皆様の温いご支援ご友情、感謝

に堪えませんでした。

この10周年を契機に、当クラブが益々発展する事を信じると共に会員皆様のご多幸をお祈りします。

インターラクト
加盟認証状伝達式



期末例会懇親会





9代

9代会長 森 善助

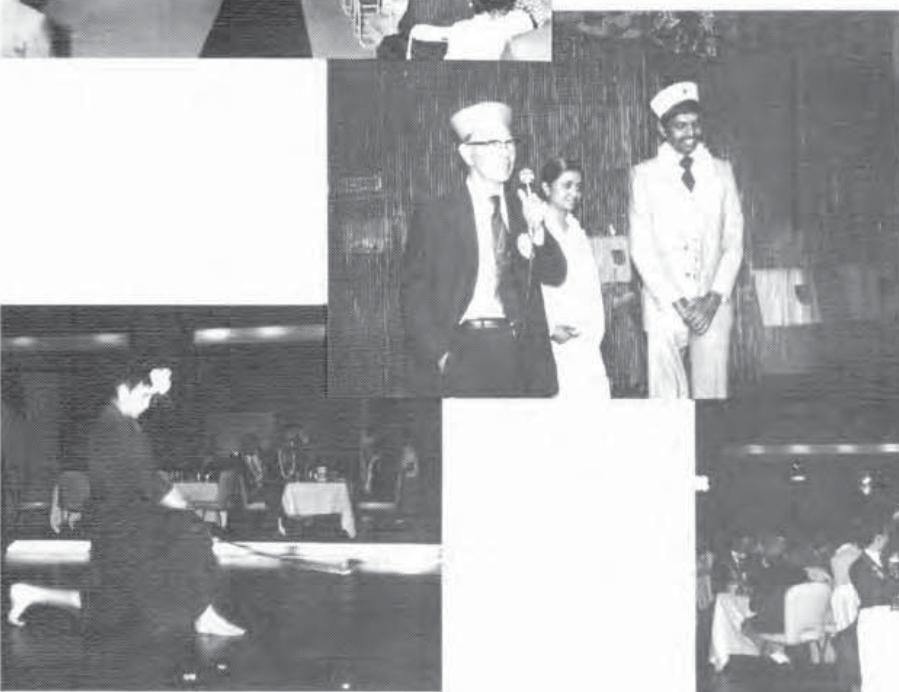
横浜緑ロータリークラブも10周年を迎えたが、昔から10年一昔といわれておりますように、一つの節目をもったということになります。

国際ロータリーも創立75周年を迎えたわけですが、ロータリークラブ結成から今日に到るまでのあいだには、いろいろな迂余曲折があつていまのような国際ロータリーができたものであります。

人類の諸文化は非常に発達して人々に幸福な生活をもたらしましたが、現在の国際間の政治経済関係は実に複雑多岐であり、いろいろな問題を国際間に生じさせております。

ロータリーの理想とする活動もまた、国際社会と無縁なものではありません。社会の変化に応じて、それに対応していくことが必要だと思います。

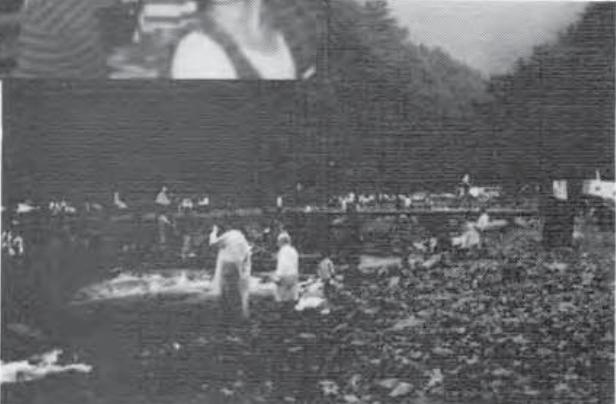
10年を経た横浜緑ロータリークラブも、今までの活動をかえりみ、ロータリーの真の活動とは何かを常に自問し、今後の活動を祈り、発展を期待してやみません。



クリスマス
家族会



職業奉仕
中里学園園児にお寿司を



釣大会

● 緑ロータリークラブ年度別組織表

役名	年 度	1970~1971	1971~1972	1972~1973	1973~1974
会長	石川治道	秋田茂	小林安雄	加藤雅光	
副会長	秋田茂	小林安雄	加藤雅光	鵜川昇	
幹事	柴田清	三沢君夫	高橋正文	名倉健二	
会計	浜田淳太郎	浜田淳太郎	篠田貞光	篠田貞光	
S.A.A	名倉健二	森一哉	岡本健	武藤松一	
社会奉仕委員長	岩崎董正	中山恒三郎	岩本正三	山下栄藏	
国際奉仕委員長	麻生和衛	藤森茂	鵜川昇	森善助	
職業奉仕委員長	細辻文治	土志田昭吉	野路久治	野路久治	
			(柴田清)		
クラブ奉仕担当理事	秋田茂	小林安雄	加藤雅光	鵜川昇	
親睦活動委員長	富永力	山下栄藏	山口吉蔵	山本照磨	
出席委員長	土志田昭吉	岡本健	森善助	岩本正三	
職業分類委員長	吉田晴太郎	好井良雄	野路久治	高橋正文	
雑誌委員長	小峰政博	志田宝	長瀬正作	麻生和衛	
クラブ会報委員長	藤森茂	武藤松一	中野実	戸田裕也	
会員選考委員長	鈴木憲一	加藤雅光	中山恒三郎	石川治道	
会員増強委員長	秋田茂	小林安雄	加藤雅光	鵜川昇	
プログラム委員長	小林安雄	麻生和衛	武藤松一	富永力	
R情報委員長	高橋正文	岩本正三	富永力	三沢君夫	
広報委員長	志田宝	名倉健二	岩沢幸男	岡本健	
ロータリー財団委員長	松田三郎	戸田修	戸田修	戸田修	
米山財団委員長	鵜川昇	鵜川昇	(沢山勇)	土志田昭吉	
世界社会奉仕		松田三郎	山下栄藏		
I.G.F.準備特別委員長				秋田茂	
インター ローター アクト準備委員会				名倉健二	
75周年記念実行委員長					
10周年記念実行委員長					

1974~1975	1975~1976	1976~1977	1977~1978	1978~1979	1979~1980
鵜川昇	名倉健二	中山恒三郎	三沢君夫	森善助	山下栄藏
名倉健二	中山恒三郎	三沢君夫	森善助	山下栄藏	岡本健
山下栄藏	武藤松一	岩沢幸男	岡本健	浜田勝彌	戸田裕也
篠田貞光	川口節夫	川口節夫	川口節夫	武藤松一	武藤松一
浜田勝彌	代々木和男	中野実	砂村忠吾	寺崎誠三	岩岡正
高橋正文	岡本健	山口吉蔵	野路久治	岩沢幸男	内野晃
戸田裕也	清水勇	中林靖	浜田勝彌	阿久根幹成	寺崎誠三
岩沢幸男	富永力	武藤松一	岩本正三	代々木和男	浜田勝彌
名倉健二	中山恒三郎	三沢君夫	森善助	山下栄藏	岡本健
阿久根幹成	浜田勝彌	田辺政雄	代々木和男	岩本正晃	岩沢幸男
野路久治	古谷英太郎	岩岡正	阿久根幹成	山口吉蔵	田沼文衛
清水勇	岩本正三	富永力	麻生和衛	戸田裕也	岡本健
秋田茂	山口吉蔵	清水勇	岩沢幸男	中林靖	森善助
加藤芳昭	中林靖	浜田勝彌	田辺政雄	内野晃	松波玄海
三沢君夫	秋田茂	小林安雄	名倉健二	小林安雄	鵜川昇
名倉健二	中山恒三郎	三沢君夫	森善助	山下栄藏	中山恒三郎
岡本健	岩沢幸男	田代達郎	山下栄藏	田沼文衛	古谷英太郎
中山恒三郎	加藤雅光	石川治道	小林安雄	中山恒三郎	名倉健二
森善助	中野実	山下栄藏	近藤囊	富永力	代々木和男
石川治道	戸田修	戸田修	戸田修	戸田修	戸田修(名倉健二)
岩崎董正	野路久治	加藤雅光	加藤雅光	加藤雅光	加藤雅光
			小林安雄	三沢君夫	三沢君夫
	青少年	森善助	岩沢幸男	矢島誠治	
富永力	インター ローター アクト	鵜川昇	鵜川昇	鵜川昇	鵜川昇
				小林安雄	
				三沢君夫	

● 会員入退会状況

1970・2・28 3・11 チャーターメンバー	1970~1971 (入会)	1971~1972 (入会)	1972~1973 (入会)	1973~1974 (入会)	1974~1975 (入会)
秋田 茂	野路 久治	古屋 晃	西野 淳造	浜田 勝彌	大塚 義平
石川 治道	内藤 勝茂	沢山 勇三	藤森 茂(再)	菅野 明男	田辺 政雄
岩崎 薫正	岩沢 幸男	清水 勇	山本 照磨	大出 浩市	砂村 忠吾
小林 安雄	森 一哉	山口 吉藏	加藤 芳昭		岩岡 正
小峰 政博	森 善助	戸田 裕也	篠田 貞光		古谷 英太郎
中山 恒三郎	好井 良雄	藤本 明	中林 靖		中川 淳
柴田 清	広田 鉄雄		代々木 和男		寺崎 誠三
鈴木 憲一	戸田 修		阿久根 幹成		田代 達郎
土志田 昭吉	加藤 雅光				
足立 英一	三沢 君夫				
麻生 和衛	武藤 松一				
藤森 茂	中野 実				
浜田 淳太郎	山下 栄蔵				
細辻 文次	黒沢 保				
岩本 正三	坂本 修				
松田 三郎	渡辺 宏未				
三橋 英一	長瀬 正作				
名倉 健二					
岡本 健					
志田 宝	広田 鉄雄	内野 勝茂	藤本 明	小峰 政博	好井 良雄
高橋 正文		足立 英一	渡辺 宏未	菅野 明男	西野 淳造
富永 力		森 一哉	黒沢 保		山本 照磨
鵜川 昇		藤森 茂	志田 宝		高橋正文(逝去)
吉田 晴太郎		松田 三郎	藤森 茂		加藤 芳昭
		細辻 文次	浜田 淳太郎		
		坂本 修	柴田 清		
			吉田 晴太郎		
			沢山 勇三		
			古屋 晃		

1975~1976	1976~1977	1977~1978	1978~1979	1979~1980
(入会)	(入会)	(入会)	(入会)	(入会)
松波玄海	村山公望	唐木秀夫	三沢武良	豊田洋
近藤囊	矢島誠治	渡辺武	幸内伸雄	藪島五郎
田沼文衛	赤柄忠昭	松田寿人	中村彰宏	海内俊男
好井良雄(再)		山田雅人	小林敬	遠藤真作
岩本正晃		宮崎周治	平柳武男	北島司
内野晃			原瀬速美	
川口節夫			佐々木 胖	
(退会)	(退会)	(退会)	(退会)	(退会)
大塚義平	石川治道	田代達郎	近藤囊	清水勇
篠田貞光		中川淳	川口節夫	土志田昭吉
		野地久治		鈴木憲一(逝去)
		中野実		平柳武男
		砂村忠吾		戸田修(逝去)
		村山公望		麻生和衛
		唐木秀夫		松田寿人
				宮崎周治

緑ロータリークラブ会員名簿

1980.3 現在



赤柄 忠昭

- 旅行斡旋
- (株)サン東総業 常務取締役
- 緑区鴨居町661
- S. 15. 9. 26



岩本 正晃

- 歯科医
- 岩本歯科医院 副院長
- 東京都世田谷区尾山台2-2-10
- S. 21. 6. 9



阿久根 幹成

- 小児科医
- 阿久根医院 院長
- 緑区藤が丘2-6-5
- T. 15. 4. 26



岩本 正三

- シニア(歯科医)
- 岩本歯科医院 院長
- 緑区寺山町97
- T. 8. 12. 2



古谷 英太郎

- シニア(室内装飾用品)
- (株)ペイント・アート 代表取締役
- 緑区三保町2025
- M. 38. 7. 21



岩岡 正

- 石油製品
- 岩岡商事(株) 代表取締役
- 緑区鴨居町1336
- S. 5. 4. 21



浜田 勝弥

- 貨物自動車輸送
- ひかり運輸(株) 取締役社長
- 緑区鴨居町1214
- S. 8. 1. 21



岩崎 董正

- シニア
- 岩崎呉服店 代表取締役
- 緑区長津田町1860
- M. 28. 10. 24



原瀬 速美

- 電話事業
- 中山電報電話局 局長
- 神奈川県中郡二宮町百合ヶ丘2-9-1
- S. 3. 12. 24



岩沢 幸男

- 幼稚園
- 三保幼稚園 園長
- 緑区三保町2384
- T. 14. 4. 11



加藤 雅光

- シニア(消化器病科医)
- ヨコハマクリニック 院長
- 緑区千草台52-18
- T. 15. 8. 7



三沢 武良

- 外国為替銀行
- 東海銀行中山支店 支店長
- 東京都世田谷区若林1-33-5
- S. 11. 4. 14



小林 敬

- 自動車修理
- (株)ブライザーモーター 代表取締役
- 港北区篠原町1120
- S. 15. 3. 16



三橋 英一

- 土木工事業
- 三橋建設(株) 取締役社長
- 緑区元石川2121-4
- S. 6. 2. 8



小林 安雄

- シニア(板金工作)
- 小富士産業(株) 取締役社長
- 鎌倉市浄明寺110
- T. 13. 8. 30



北島 司

- 都市銀行
- 三井銀行青葉台支店 支店長
- 八千代市八千代台西5-3-6
- S. 8. 12. 8



幸内 伸雄

- 生コン配布
- 緑建材(株) 代表取締役
- 緑区川和町1702-2
- S. 7. 4. 9



森 善助

- シニア(農業)
-
- 緑区桜台33-3
- T. 7. 10. 25



松波 玄海

- 綿製品
- (株)トーカイ 横浜支店支店長
- 緑区上山町398
- S. 11. 2. 23



武藤 松一

- 送風機
- 武藤電機(株) 取締役社長
- 川崎市高津区下作延1923-7
- T. 5. 3. 30



三沢 君夫

- ボーリング場
- 三沢合資会社 代表者
- 緑区奈良町750
- T. 15. 9. 11



長瀬 正作

- シニア(電気工作)
- (株)ミドリデンコー 取締役
- 港北区綱島西2-8-11
- T. 2. 4. 2



名倉 健二

- シニア（履帶）
- 株東京リンク製作所 取締役社長
- 港北区大曾根町961
- T. 9. 5. 20



田辺 政雄

- 船舶修理
- 大丸工業株 代表取締役
- 緑区寺山町97
- T. 10. 1. 2



中林 靖

- アスファルト製品
- 日本舗材株 取締役会長
- 東京都杉並区阿佐谷南1-13-8
- S. 4. 5. 7



田沼文衛

- 食品材料配布
- 株グリーン食品 専務取締役
- 相模原市東林間2-21-2
- M. 41. 7. 19



中村 彰宏

- 美容院
- 美容室カモイ 店長
- 緑区鴨居町719-6
- S. 16. 9. 8



寺崎 誠三

- 建築設計
- 有寺崎工務店 代表取締役
- 緑区川和町2549
- S. 6. 10. 1



中山 恒三郎

- シニア（酒精飲料）
- 株中山恒三郎商店 取締役社長
- 緑区川和町890
- T. 12. 5. 13



戸田 裕也

- 病院
- 長津田厚生綜合病院 院長
- 東京都品川区大井3-20-12
- S. 12. 4. 7



岡本 健

- 銃器
- 株ミロク精機製作所 取締役社長
- 神奈川区片倉町757-68
- T. 13. 3. 4



富永 力

- シニア（ビニール高周波加工）
- 株富永高周波 代表取締役
- 緑区しらとり台36-2
- M. 43. 12. 20



佐々木 脊

- 地方銀行
- 横浜銀行中山支店 支店長
- 旭区鶴ヶ峰1-69
- S. 5. 7. 29



内野 晃

- 外科医
- 内野医院 院長
- 緑区市ヶ尾330
- T. 15. 3. 21



鵜川 升

- 高等学校
- 桐蔭学園 校長
- 神奈川区白幡西町58
- T. 9. 8. 10



好井 良雄

- 鉄鋼建築
- 株好井鉄工所 代表取締役
- 緑区佐江戸1956
- T. 5. 4. 1



渡辺 武

- 税理士
- 税理士渡辺武事務所 所長
- 緑区池辺町2667
- S. 10. 2. 28



代々木 和男

- 建築材料販売
- 有代々木商店 取締役社長
- 緑区市ヶ尾町325-1
- S. 7. 6. 11



矢島 誠治

- 私塾
- 中山学園 経営者
- 緑区三保町812
- S. 3. 9. 7



豊田 洋

- 自動車販売
- 北京浜三菱自動車販売株 取締役社長
- 緑区藤ヶ丘
- S. 20. 10. 6



山田 雅人

- 内科医
- 山田医院 院長
- 緑区中山町750
- S. 2. 9. 5



藪島 五郎

- 電気器具製造
- 関東電気株 取締役社長
- 緑区川和町2320
- T. 10. 10. 11



山口 吉蔵

- シニア（電気絶縁物）
- 横浜化成株 取締役社長
- 町田市南つくし野4-6-6
- M. 42. 12. 18



海内 俊男

- 板金工作
- 海内工業株 取締役社長
- 東京都大田区池上6-12-7
- T. 7. 6. 5



山下 栄蔵

- 建設機械
- 山下工業株 取締役社長
- 神奈川区白幡向町99
- T. 15. 10. 30



遠藤 真作

- 設備工事
- 株遠藤製作所 取締役社長
- 大和市深見3211-5
- T. 13. 4. 10



二宮 登代子
事務局

物故会員

田園R.C.へ
(創立のため移籍)



野地久治



鈴木憲一

54. 9. 1逝去



中野実



秋田茂

55. 4. 28逝去



砂村忠吾



高橋正文

51. 9. 26逝去



村山公望

◎財団寄付率 (基準人員 48名) 9200%

今期寄付額合計 3879.99ドル 1人当たり 80.8ドル

寄付累計 44455.5ドル

◎ポールハリスフェロー (28名) ○は会員外 □は元会員

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 浜田 勝彌 君 | 10. 武藤 松一 君 | ⑯ 土志田昭吉 殿 |
| 2. 岩本 正三 君 | 11. 長瀬 正作 君 | ⑯ 黒沢 保 殿 |
| 3. 岩岡 正 君 | 12. 名倉 健二 君 | ㉐ 武藤 勝典 殿 |
| 4. 岩崎 董正 君 | 13. 中山恒三郎 君 | ㉑ 戸田 修 殿 |
| 5. 岩沢 幸男 君 | 14. 寺崎 誠三 君 | ㉒ 高橋 正夫 殿 |
| 6. 加藤 雅光 君 | 15. 鵜川 昇 君 | ㉓ 武藤 義一 殿 |
| 7. 小林 安雄 君 | 16. 山口 吉蔵 君 | ㉔ 武藤 泰典 殿 |
| 8. 三沢 君夫 君 | 17. 山下 栄蔵 君 | ㉕ 石川 治道 殿 |
| 9. 森 善助 君 | | ㉖ 鈴木 憲一 殿 |
| | | ㉗ 森 玉江 殿 |
| | | ㉘ 武藤 準子 殿 |

◎米山功労者

- | | |
|------------|------------|
| 1. 岩岡 正 君 | 5. 三沢 君夫 君 |
| 2. 加藤 雅光 君 | 6. 武藤 松一 君 |
| 3. 小林 安雄 君 | 7. 秋田 茂 君 |
| 4. 森 善助 君 | |

緑ロータリークラブ創立10周年記念講演



『己に克つ』

高田好胤師

『かたよらない心、こだわらない心、とらわれない心、広く広くもっと広く、これが磐若心経、空の心なり。』今日は！只今森さんから心のこもった御紹介がありました。

関西テレビ（東京ではフジテレビ）の「ハイ土曜日」に出演して居りますが、それが終ってこちらへ向い、大阪は雨でした、熱海を通りトンネルをくぐり、ふとあたりを見ますと何か異様な景色でございました。まさか雪とは思いませんでしたが、雪でございました。

ほどろほどろにはちょっとほどろすぎる雪でございますが、まあ今日は、森さんのお引合せでこうした、75周年又10周年の記念の講師にお招きを戴いたんですけども、森さん5年前に行ったときには、3月も彼岸がすんだというのにえらい雪の日でしたなあと、思い出に残るんではないかとそういう意味では、私どもに思い出をあたえてくれる慈悲の雪であろうかと思うのであります。

私は結婚式にお呼ばれした時に必ずもってまいりますそれは一冊のお経の本であります、それは父母恩重経と申しますが、これはフボと覚えてもらって結構です。けれども、

坊さんがお経を読むときは漢音でなく母音で読むならわしなので、ブモとフリガナを書いておきます。和文にしたものを見ますと、約20分かかるのであります。そのお経を渡しまして、新婚旅行の道中、二人で何處かで心を合せてこれを声を出して読んでほしいといつも頼んでいる、この頃、大たいみんな読んで来てくれる様です。挨拶に来てくれる人がある、札状をくれる。そんな中には、こんなお経を読んだばかりに、楽しかるべき新婚旅行が涙の旅行になってしまったと、まるでうらみ状の手紙も時々まい込んでまいります。私はそれを読むたびにああよかったですと思って喜んでおります。それは恩と云うものは印度の「カタニー」「ウバカーラ」そういう言葉を訳したのが恩なのです。もとの言葉の意味は「カタニー」してもらったことを覚えている。してもらったことを思い出す。「カタニー」「ウバカーラ」これが恩であります。私どもは、だいたいされたことは、いつまでも、どぎつく覚えています。してあげたことも覚えている。けれどもしてあげたことやされたことは忘れたらよい。恩は石にきざむ、

うらみは水に流すというのが教えであります。けれど仲々そうはいきかねるのが私どもお互いで、うらみはせっせと石にきざみ、恩は水に流すのがお互どもの有り姿ですね。けれどもしてもらった事を覚えている。してもらった事を思い出す、これが恩であります。その親の恩を身近に説いたお経さんを、新婚旅行の道中で読んで涙をもよおしてくれるとは、何と人の心の中には、気持には本質的にそのやさしさが、美しい清らかな心が本来本質的に授かっているということなんであります。ですから最後には、この涙は二人が生涯忘れてはならない大切な涙であるということを思い出しました。有難うございましたというようなそういう意味の文字で結ばれている場合が常であります。みんな本年、本質として心の中には清らかな温い心を授かっているけれども、そうゆう心に気がつかないままで一生を終えていかねばならない。そうゆう心に気がついて生涯をすごすことの出来る人もあるというわけですね。父母恩重経というお経があるんです。

これは高専の諸君も一度お読みになってもらいたいなあと思うんです。

仏壇やさんには、磐若心経とか観音経とか阿彌陀経とかは必ず置いてあります。しかし、父母恩重経をおいてあるところはわりあい少い。そこで仏壇やさんを紹介されたときには父母恩重経をおいてくれる様に何時も頼んでいる。町へ行っても仏壇やさんの店に入つて置いてあるかどうか聞いて、置いてあると、これはいい仏壇やさんやなあと安心して出でる。これが常日頃なんであります。

この父母恩重経を帰つてから皆さんも是非読んでいただきたい。私は大正13年生だということをさき程申しましたけれどもこの数え年57才のこの私が今でもこのお経で年1回か2回、必ず泣かされるのです。私の誕生日は3月30日ですが、1週間前の3月23日が母の命日であります。父の命日、母の命日、私の誕生日、そうゆうときに必ず、父母恩重経を読みますが、年に一回か二回必ず泣かされるのです。去年の3月23日に朝から御写経をして、墓参りに行きましたところ姉と一緒にました。お墓参りといつてもお前の処は寺やから自分の家の中にあるんやろうと思はれる、

けれどもそはいきません。東大寺、法隆寺、興福寺、私ども（薬師寺）と奈良の時代からの伝統的なお寺にはお墓というものが無いんであります。又そうゆうお寺の坊さんはお葬式をしないという建前を今日までつらぬいています。ですから、世間の人はお寺といったら墓があるんだ坊主さんといったら葬式をするんだと割合短絡な認識をされる場合が多いんですが、お墓のない寺もありお葬式をしない坊さんもいるということを知つてもらうたらと思うのですが……そうゆうことで、お墓参りに行って姉と出会いましたんで一緒に寺えかえって来て、仏像の前で、母の位牌の前で一緒にお経をあげようかといって、この父母恩重経をあげました。あげましたら姉は6才年上ですがやはり女ですね、この姉が早々と涙声になりました。その姉の涙声を聞いて居りますと、昔からこの心根のやさしい弟は、姉ちゃん一人泣かしたらかわいそうだと、無意識の中でそう思ったのか、私も気がつけば、泣声になりとぎれとぎれ、つまりつまりになってやうやく二人でお経を読みおえたということです。

読み終えたときに姉が一言「お母ちゃん喜んでくれはるやろうな」と云いました。

それはそうやなあと、しみじみ母をしのんだのが去年の3月23日でございました。

母の命日を明日にしてこんなところで、うろうろしてもいいのかいなと心配して下さる方もあるかと思いますが、私は明日川越へ講演に行くのであります。去年埼玉県の浦和に埼玉会館という大きな公会堂（文化会館）がありましてそこえ講演に行きました。主催者は生長の家の青年部の人々であります。そこで講演が終った后しばらくたって世話人さん達がやって来て、来年の3月23日、川越で福祉会館が会場とれたんだけど、そこへ来て話をもらえないかという話があったのでそれは困る。3月23日は母の命日だ、私は年がら年中ぶらぶらして居るけれども母親の命日には墓参りもしたいし、まあ寺にいて御写経して、母を偲びたいんだとおことわりしたんです。ところがことわったつもりでもなんですか向うさんにしてみれば先生のお母さんは埼玉県の川越で昭和21年の3月23日亡くなられたんでしょう。「そうです」だから3月23日、

川越で話をしてもらいたい、お願をしにきているんです。3月23日お母さんがなくなられ川越で父母恩重経で母を語る、話してもらうそれがお母さんへの供養にはならないでしょうか？ こういわれたんです。あんた方はそれを知って居て3月23日、川越で話をさせてやろうというおぼしめしで来てくれたのかと云うとそうだと答えた。この間、埼玉会館で話をしてくれたので、こういう形でお礼をしたいという気持ちでお願いにきました。やはり生長の家のように若くしてこうゆうものに關係する人たちは心が温かいなあと思いました。

私の姉がこちらへ嫁いで来ていましたので、お産の手伝に母が川越に来ていて、客死したのでございます。いもの好きな人でありますたのでいもの産地の川越でこれこそいもを一杯、靈前に供えてもらったのは、この悲しいことはあったけれど、昔から、芝居、いも、たこ、南京と云はれた、女の好きなものですが、私の母はとくにいもの好きな人だったので、すべて死に場所をいも処であったことがせめてものなぐさめがありました。その川越へ明日行って話をするわけです。もしあなた方の中でお父さんやお母さんがおられない方があったら、その命日に兄弟で、父母恩重経で、はらからの情愛、お互の心をうるおされ合って、いただきたいと思う心、というお経があることをおとりつぎしまして出しまして、「母」という題をつけました。

お父さん、お母さんの恩を説いたお経を講義して、何故「母」という名にしたかというとこのお経を読んでいるとお父さんで説かれているのが、11ヶ所、お母さんで説かれているところが、33ヶ所あります。

親の苦労の具体的な姿が、ことごとくといってよい程、母の姿で説かれて居るんです。お父上の立場で、このお経を読んでいると引合はなんあと思うんです。だいたい世の中は、引合うのは母親で、引合はないのが父親です。わたしどもの母の命日は3月23日で、忘れるることは、ございません。父の命日は、忘れるといけないので新しい手帳をもらうとまづ第一に7月6日に父の命日と書き込みますが、母の命日は、書き込んだことがありません。書かなくとも絶対に忘れないからです。母と

いうじに草カンムリをつけると、愛されて、したしまれる苺です。ところが草カンムリの下に父は、これは艾であります。

同じ親でも一方は苺であり、一方は艾である。父親たるものは子供の急所をすえるんだよ、そうゆうことをあの字は教えているんです。ひらがな、カタカナ、ローマ字は音を表す、表音文字であります。漢字というものは、意味を内にもついて表に意味を表す。表意文字であります。これが漢字です。一方が苺で一方が艾、世間がそうあるばかりでなく、お経の中まで何故、お釈迦さまは、お母さんに心をかたむけていらっしゃるのだろうか、

西歴前565年、4月8日に、ルンビニという花園でお生れになった、花祭りとして、4月8日にお釈迦様の誕生日をお祝いして、小さな国ではあるが一国の皇太子としてお生れになった、けれども7日目に難産でお母さんがこの世を去られている。ですから一目といえども記憶の中に最愛のお母さんをやどすことが出来なかった。いうなれば不幸な生い立ちであったというわけです。後にお母さんの妹さんが新しいお母さんになられましたが、亡き姉のカタミ子を、慈愛をもって、お釈迦さまをお育てになった、この育ててくれたお母さんには仏法の道で、御恩返しをなさいました。そしてお父さんは79才までお生きになりました。お父さんには病気の時、看病をなさり、亡くなられたときには、自分の肩にひつぎをかつぎ、野辺のおくりをなさいました。お経で、お父さんを看護をなさったというお姿がうかがえる一節が次の様に出ています。

「父母病あらば枕辺を離れず、したしく自ら看護せよ、一切のことこれを他人にゆだねることなく……」 枕辺を離れることなく、お父さんお母さんの看病は、子供が自分でするんだよと、説かれているんです。このごろは完全看護で、出来るだけ、手間のかからない病院はないかと探して廻るということは、これは不心得違いも甚だしいということあります。

人を幸せにする、家庭を幸せにする、社会を幸せにする、民に説かれたおしえを福田といいます。幸福、幸のたねをまくにふさわしい田んぼ、この福田の中で一番のものは何か、「看病福田これ第一なり」と説かれて居ります。

年寄の看病をしている親の姿を見て育った子供とそうでない看病の姿を見たことのない子供とでは、心の養はれ方がやさしさが、根本的に違うだろうと思うのであります。

お釈迦さまは、お経の中に看病のということの大ささを随分とお説きになって居ます。その中に今日の言葉になおすならば「お墓参りをして、仏さんをおがんで、坊さんの説教を聞いている閑があれば、家に病人があれば家に帰って、お父さんお母さんの病人の看護をする方がもっと大事な人の道だと、お経がある位です。ですからお経の中に十月十日子供を宿し、生むその母の苦しみについて、場所をかえ2回も出てくるのです。80年間のお釈迦様の生涯を通しての実感だったと思います。

「諸人よ、思い知れかし、おのが身の、

誕生日は、母苦難の日」

読み人知らずですがこれは、是非皆さんに覚えていて貰いたい、誕生日というと、お父さんにプレゼントを買って貰う、お母さんに御馳走してもらう、皆からおめでとう、といって祝って貰う、これだけが、決して誕生日の子供のあるべき姿ではないということです。誕生日には、お父さん、有難う。お母さん有難う、おじいちゃん、おばあちゃん有難うと、いう言葉をもって、御挨拶して欲しいと、お札の言葉をお願いしておきます。

子供というものは親の姿を見真似で、真似て学ぶんですね、真似るということが学ぶとぶという、教育の基本の始まりであります。無意識の中にこそ真実の意識というものが、ある、真実の意識は、意識以前の子供の気持の中に親の姿において、養はれていくものであります。やはり親の姿というものが大事であります。今日は、お父さんの誕生日なんだ、ここにこうして居られるのもおじいさん、おばあさんのお蔭などと、今日はおじいさん、おばあさんにお礼をしなければならないかん、大事な命の日なんだよと、お前たちもおじいちゃん、おばあちゃんどうも、有難うと一緒にお札をいうてくれよと、こうゆう誕生日の親のまじめな姿が、子供に誕生日のあるべき姿を自づと、おしえていく姿であり道であるということです。おのが自主姿で子供の心の中に養う、誕生日の親のまじめな姿。

そうゆうものが、今日、私ども自からに問いたださなければいけない親の姿ではないかと思うのであります。

毎月11日、12日に五反田の駅から歩いて5分位の所に薬師寺別院があり、そこえ午前、午後話をしに行って居ります。なかんづく毎年5月は母の月なので、父母恩重経の講義をして居りますので、お閑なときにおいでいただき、今日の話のたりないところをおぎなつていただければ幸いだと思います。

父母恩重経をもう少し説くと、お母さんに苦労をかけて生れた子供は、「母の懷を寝廻となし、母の膝を遊場となし、母の乳を食物となし、母の情を生命となす」ここは非常に大事な一句だと思うんです。

前にこの父母恩重経の話で、大阪のある医師たちの集りでしたが、阪大の小児科の先生が、お経の中に「母の乳を食物となし、母の情を生命となす」こうゆう言葉があるということをもっと前に存じて居りますれば、今もっともおそれている愛情欠忘症ということこの病気を未然に防ぐことが出来た筈です。不明でございました。というてこのお経に、その先生が詫びられた。その真しな姿に、私どもの生命をおあづけしている先生が、こうゆうような真面目な先生方であって下さるんだなといいたく感激致したことを思い出すんですが、ところがこのごろは「母の乳を食物となし」というところが、大分様子が変って、まいりまして「牛の乳を食物となし」となっています。

「母の情を生命となす。飢える時、食を需むるに母にあらざれば哺わず、渴く時、飲を索むるに母にあらざれば咽まず、寒き時、服を加うるに、母にあらざれば着ず、暑き時、衣を撤るに、母にあらざれば脱がず。母飢に中る時も、哺める吐きて子にわしめ、母寒さに苦しむ時も、着たるを脱ぎて子に被う。母にあらざれば養はれず、母にあらざれば育てられず、その車を離るるに及べば、十指の甲中に子の不淨を食う。計るに、人々母の乳を飲むこと、一百八十斛となす。父母の恩重きこと天の極まり無きが如し。」

という一節があります。一昨年インドへ仏蹟巡拝にお参り行ったときに、案内をしてくれたのが、ダス・ボーアイックというインド人

でありました。この人がお母さんに死に別れてしまもない頃がありました。何かことあるとしきりとお母さんを思い出して居た。車（バス）の中でこんな詩をくちずさんでいた。インドにはお母さんをよんだこんな詩があるんですよといって、母を語るの詩を口づさんでくれました。これを聞いて父母恩重経をきいている思が致しました。その詩というのは、

「お母さんは、天よりも地よりも、もっとも大切です。お母さんは、10ヶ月の間お腹の中で、私たちをあたためてくれました、子供のためなら笑顔で命をしてくれたお母さん食物も自分より先に子供にたべさせるお母さん、食物がない時は、自分が食べないで、すませてくれるお母さん、痛みをのりこえて命を生み出してくれたお母さん、そしてその痛さを喜んで忘れてくれたお母さん、天よりも地よりも、もっともっと大切なものの、それはお母さんです」という詩があるんですということを、まみをうるませながら語ってくれた。

その時に私は父母恩重経を聞く想いでしたといい、ダッサンの詩を聞かしてもらったけれどもお父さんをよんだ詩がありますかと聞いたら、ありますよと答え、

「お父さんは空に輝やく星です。人生のみちしるべになってくれる空に輝く星、それが、お父さんです」という詩がインドにはありますと言わわれた。お母さんに比べてお父さんの詩は非常に短い詩でした。

万葉の昔から親にかかる枕ことば「たらちね」ですね

『たらちねの 母にさわらば いたずらにいましもあれもことなるべしや』
お母さんにそんな遠慮気がねばかりしていたらば、二人の恋をそいとげることが出来ないではないかと、何とかしてくれよとはげましている男の気持を表しているんです。

娘時代はお母さん方の乳はそれこそ花にたとえれば、花の蕾の様に充実した美しいそれであった。ところが子供を育てる事によつてだんだんと花は咲きすぎて、そして花は花でも、藤の花の様にたらりんとたれさがって、かたちのくづれたそんなお母さんのお乳のすがたそれが、親にかかるまくらことば「たらちね」であります。しかしどんなにかたちが

くづれであろうとも私どもの命をそぞろ、民族の命をはぐくんでくださった、このたらちね勲章は、勲一等も大勲位といえどもはるか足もとにも及ばない。これが尊いたらちね勲章であります。しかしこのたらちね勲章をなほざりにしているところに今日の日本民族の悲劇の始まりがあるように思えて仕方がないのであります。

さき程、漢字は、表意文字だと言いましたが『母』という字がありますが、最近は乳を飲ませなくなったので、母になるのではないかと心配していたら、母であるという。これは何だと言うと、森永と明治のミルクのMMだということでびっくりしてしまう。

ことばというものは文化の基本であります。関東弁で育った人と、関西弁で育った人と、情緒とか、情操とかどっかで違ったところがあります。

日本には、お父さん お母さん とおちゃま かあちゃんという、こうゆううるわしい大和ことばがあるにもかかわらずに、何故、ママといわなければならぬかと思うんです。

そんなこと言はしているから子供がみんな、気ママになるなんあります。「パパ」子供がパーティーします。それ以上に親がパパします。いまや、一億総パパであります。

言葉というものはやはり文化の基本であります。私ども日本人が日本の文化歴史と伝統というものをしっかりと守って、それをもって世界の調和の向上に役立ったとき世界の人々が、信頼し尊敬し愛してくれるのではないか。それが世界に対する、日本人のつとめではないか。私どもが、どんなにアメリカになろう、ヨーロッパになろうとしてもなれない。帰化すればなれども、似て非なるものであります。にせものを誰が、尊敬し信頼し愛してくれますか。しかもこれから日本の文化、歴史、伝統をもって世界の調和の向上に大いに役立たねばならない時がきっとあると思うとき、ゲーテという人が「眞に民族的なものこそ、眞実国際的に価値あるものだ」という言葉を私どもに教えてくれている。

我々はしらずしらずの中に戦後、意識がならされ植民化されて来ているんです。たとえば、私は年を聞かれたら必ず数え年で57才（大正13年生れ）と答えている。お母さんの胎

内にやどった時から人生生涯は始まっているんだ東洋ではずっと数え年で来ているんです。それを戦後なんで満年を数えねばならんのかと。又外国へ行ったとき、英語で名前を書くときは、コウイン・タカダと書けといわれる。とんでもない私は、高田好胤だと、ですから、アメリカへ行った時もずっと、タカダ・コウインで通した。

そうぢやないですか、毛沢東という人が、周恩来という人が、もしアメリカへ行かれたらあの人たちは、沢東・毛と書かないし、恩来・周と決して書きませんよ。それじゃあアメリカの人が日本へ来たときに、カーター・ジミーと書きますか、やはり向うの伝統を他国へ行っても、ジミー・カーターで通すんですよ。それを何故我々が好胤・高田と書かなければならぬか、不思議でかなわんのです。ですからずっと、高田好胤で通しました。そしたら後でそれを見た人が、ああ管長は高田好胤とフルネームを先に書かれるんですかと、「そうだ」と答えたならそれでいいんですよ、どうも有難うございましたと礼をいわれた。

そして、アメリカでも公式のときは、フルネームが先だとこういわれた。ですから我々はもっと権識をもって、日本の文化、歴史、伝統をしっかりと生活の中で育っていく、そういうためには、やはりママやパパや、言うことはだんだんと意識の上で植民地化しているということなんあります。父母恩重経の中味はこれ以上申し上げませんがといつてもちょっとお話ししなければならないのですが、

10の徳目にわけて、親の恩が説かれているんです。「一には懷胎守護の恩、二には臨生受苦の恩、三には生子忘憂の恩、四には乳哺養育の恩、とあり、五には廻乾就湿の恩」というのがあります。これは、乾いた処え子供を廻して寝かせる、湿って居る処に、お母さんが体温で暖めて子供を寝かしてくれる。子供が寝小便をしたときの話であります。

お経の中に「水の如き霜の夜にも、冰の如き雪の晩にも乾ける処に子を廻し、湿える処に己れ臥す、子己が懷に屎或は其の良に尿するも手自から洗い濯ぎて臭穢を厭うことなし。其の初めて生みし時には、母の顔、花の如くなりしに、子を養うこと数年なれば容すなわち憔悴す……」というように10の徳目に

分けて親の恩がとかれ、このような説明がなされて居る。じゅんじゅんと親の恩が説かれているお経なんですが、この「十には究意憐愍の恩」というのがあるんですがこれは生きている間だけでなく、死んだ後々までもその子を案じる親の気持を究意憐愍と申すのであります。

昭和51年でしたけれども、岐阜県の飛騨の高山から、汽車で15分位のところに、古川という町に講演に参りました。その時に無水亭といい宿に一晩とめてもらいました。その女主人が北平晴子（本名春子）さんという68才の方でした。明るくて温かい人柄の方で、よもやま話の末、お母さんのことを話されました。そのお母さんは、晴子さんが、生まれて一年半のとき24才の若さで亡くなられたそうです。勿論その頃ですから数え年です。ですから晴子さんは、お母さんの生きておられた記憶は全く覚えていないということです。けれどもそのお母さんが晴子さんと二つ年上の兄さんである増平さんにあてて書き残された手紙があるのです。それは亡くなられる一年前、即ち明治42年11月7、9、10日にわけて書かれたものですが「その手紙が私共兄妹にとってはまさしく、母そのものなのであり、この母の手紙の教えで今日までの六拾数年を生きてきました。また子供たちも、この母の心で孫達をそぞろてくれています」ということでした。私は感激しました。若しよろしければその手紙を拝見させてもらえないかとお願いしました。

戦後に巻物に表装して、袱紗に包んでお仏壇におまつりしてあったそれを、快く見せてくださいました。読み終った時、夜中の一時すぎでした。感動しました。そして文章といい、墨痕鮮やかに書かれた文字といい、とても数え年23才のお方のものとは思えませんでした。その上、その内容が実に立派なのです。きっぱりとした信心の決定、崇高なまでの素晴らしい、ともかく皆さん先づこの手紙の内容を読みますのでよく聞いて下さい。

「かりそめならぬ病を得て、入院中万一をおもひ、成長の後、増平（晴子さんのお兄さん）春子の二子にまゐらせんと、わななく筆に心のはしをかきつけつ、われなき後は此の心を読んで反省せられん事を願いてやます。私は

前世の宿縁によって、人様より身体が弱いのですが、其為今迄にちょいちょい病気も致しましたが、然し其の度に一向死後の心配は致しませんでした。けれども人の母となってわが子といふ実に可愛いものを得ましてからは、少々病気すれば先づおもはるるはお二人の上なんです。然るに今後不幸にも急性肋膜炎といふ病気に係りました。御両親などの厚き御手當に依って此頃は日々快き方です。然し、増平さんを産みまして後から身体が弱ってきて、其後、種々の心配やらで、はきばきせぬうち又、春子さんを産みました。二とも至極健全なん引かえて、私は次第に弱る様子で、居る處で此病気を受けたのですから、今意を決して養生せねばならぬ時です。だから今一度必ず全快する決心です。然し元来が弱いのですから何れ長く長くお二人の行先を見届け、満足なる自分の責任を果す事は難い様な心持が致してなりませぬ。然し柳に雪折れなしと云います。身体の強弱に依って、其人の寿命を予定することは出来ませんから、私の神経衰弱の為かも知れませんが、或は他日、是をお二人に示して今昔に喜ぶ時があるかも知れません。否どうあってもそうありたいと願ってゐます。（一やすみ）

然しそれは未来の事、万一の事あらば二人が或は私等の事を案じなかつたろうかなど思うといけませんから、反古となると思って、ひまな身を幸いかく物しておきます。かく云えば私は未来の行先を案じて居るかと心配して下さるかも知れませんが安心して下さい。私は苦労多き世に弱き身を長らへんよりは、此世の縁つきと共に光明かがやく仏の手に救はれて、限りなき喜びの生を受けるのです。それを思えば死はなかなかに喜びです。然し然し若し早く死す其時は、増平さん春子さんただ二人の行先の力となれんが悲しいのです。是を思うとああ胸がはりさける様です。何故身体が弱いか、二人の子供がありながら、半年ほどづつわが乳を与えしのみで、人手に心にかなはぬ教育せねばならんか、ああ自分の子供の世話が出来ない者になぜ子供が授かったかと遂ひには愚痴に迷います。

死するとも　おもはじとこそ
ちかひしに　よべみしゆめに
またもまどひつ

（一やすみ）

ああ恥しい、又おろかな事遂ひに書きつけましたね。然し、もはやいつ迄も愚痴は申しません。私が早く世を去りましても、それは私の此世に受け得た身体が生活を止めた迄で、私の精靈は永久に仏と共にお二人のそばを夜といへどひるといへど決してはなれません。

そして増平さんが独立してホーム（ホームとは当時としてはハイカラな言葉だと思いますがこのお母さまは、岐阜の女子師範学校の第一回卒業生です）をつくる其様を、春子さんは早く生長して一人前となり、独立の愛情ふかき夫を得て初孫かかえ、私の墓前へ御札に来る其時迄も猶後までも、必ず守って居りますよ。すべて此世の事は此世の業ではありません。昔、前世からの宿縁ですから、よく其の道理を悟り、心静かに運命のまんまに従ふべきですね。そうして生は他日死の原、死は永久の安樂世界に生を受くる原因です。其死に望んで我にあわてふためかぬ様常々心掛くるが人間最大の心掛けです。

（頭痛す一休み）

然し世の中はうまく出来ていますよ。弱き私の子供に弱き者が出来たらどうしませう。幸い二人とも普通以上の健康を受けて居ます。そして身弱き私は例へ若死しても第二の私、即ち私の血によって出来た増平さんに春子さんという私の分身が、健康に世に処して不甲斐なかりし私の一生をして附加の花を咲かせよと、一人ならず二人迄も、然も健康な子を授けて下さったのです。かくて私の意志は永久に此世に伝はるのですね。おう有難いこと、今日も増平さんは病院へ来て不思議そうに私を見、お母様なにしているのとここに居るをいぶかり、病気の為と父よりきかされ、お母様きいきわるいにねておみでという可愛盛り、春子は（生れて半年）ようやく腰すえて私を見ればわけもなく喜ぶ頑はないものです。

今急に私が世を去れば、二人には又種々の嵐がふくでせうが、春子さん、私も四才に母に別れ、九才に父にわかれ、全く兄姉の手に育てられました。然し幼事（時）は父母なき身のかなしとも思はざりしが、生長の後には人様の上と引きくらべ、ふかき悲しみに沈みし事もありました。春子さんも何れ種々私の事を思ってくれる事もあるうと思いますが、不

幸にして私が早く死んだとて、お二人ともいじけてはいけませんよ。

ただ心掛くべきは己に克つ此の一事です。我儘も不勉強も不正真も不従順も怠惰も皆、つたない情と弱い意志の為に己れにまける為です。どうか此の一事を肝に銘じてお進みなさいよ。さすればお二人にはお二人の運命があります。其運命が必ず広きます。人は悲觀されど仏様は決してがまんのならぬ様な運命はお作りになりませぬ。忍べん運命はありません。忍べんと悲觀するのは我儘なのですよ。どうか天は自ら助くるものを助くといひますから、自棄しない様お進みなさいまし。要するに長々と申しました事は第一私は長命すと否とに拘らず、お二人のよく人生の思う様にならない事をあきらめ、楽觀して己にかつての努力をもち、正しき自活の人となって下さいといふにとまるのでござります。

ああまわらぬ筆に心の端をかく記し終り、読みかへせばわれながら乱れし文字、わが子の手前、いとはずかしけれど物うき身とてこのままにうちのこしつ、幸ひに御判読を乞ふ。猶かきたき事多々あれど何れ時を得て、としたためのこしぬ。

明治42年11月7日

9日

10日

大野郡病院特3号室にて

病める母

尾関禮子

最も可愛き 尾関増平様
" 春子様 "

この様に手紙は明治42年11月7日、9日10日の三日に分けて書かれてあります。文中所々に「一やすみ」とありますのでその事がよくわかります。なほこの手紙を書かれて一年後、明治43年11月5日、お母さんは亡くなられました。10日に書きあげ11日に封を閉じられたのでしょう。裏に明治42年11月11日と日附が書かれ、

おもひやれ　まだ鶴の子の　おひ先を
千代もとなつる　袖のせまさを
と、わが思いを後拾遺集の中に出でまいります古歌に託して残しておられます。

繰返しますが、このお手紙は数え年の一才

と三才の幼児に書かれたものです。そして翌年にお亡くなりになっているのです。その封筒の表に「この手紙は増平15才迄は封を、きる事をゆるさず」と書かれてあります。事実増平さんが15才になられるまでお伯母さんがしっかりと保管されて、15才の春に増平さんによって初めて封が切られたそうです。その時に死んだ母親が生きかえって来てくれた様な気持でしたということを云はれました。夫婦でも親と子でも「眞実の夫婦の対話」「眞実の親と子の対話」これは死にわかれの時から始まるものでございます。

この飛驒の母と子の対話は、死にわかれて10年を越えたこの日から始まったのでございます。私は毎月11日、12日、東京五反田の薬師寺別院へ話に参ります。そこえ、この手紙に出て来ます、春子さんの三男で東京へ出て、西川流の踊りの師匠をしている西川鯉之祐さんが時々お見えになりますが、母から聞いた祖母の教えで、子供を育てていますと、いうことをはっきり言はれるのでございます。子供の気持の中に永遠に生きつづける親子の対話の場、それは親の後姿であるということを申上げたいのであります。

その後姿を子供に残すこと、これが一番大切な親のつとめではないかと思うのであります。己に克つ「千度戦場に出でて、千人の敵に打ち勝つよりも、自分一人に打ち勝つ者こそ最上の戦士なり」というお釈迦様の教えがあります。

私は今日もっと角度を変えた父母恩重經は御紹介しながらも、日本民族のあたたかい、慈悲として、家族制度というものがある又、日本民族のとおとい知恵として、御先祖に、お給仕をする祀ごとがある。

夫婦の眞実の対話これは死に別れた時から始まるのです。又親と子の眞実の対話これも死に別れた日からこそ始まるものであります。子供の心の中に永遠に生きつづける親子の対話の場、それは親の後姿。後姿で子供を導く。そこに親の値打がある。けれどもその値打はお互に仲々足りない。その足りないところを日本人は遠い御先祖を神様としてお祀りする。身近な先祖を仏様として拝んでまいりました。家族だけで生活しているんでない。目には見えないけれども御先祖様が私達と一緒に家族

生活をして下さっている。

祀りごとの基本は御給仕をすることです。毎日御先祖を拝む、親の姿を見て子供がだんだんと見習って、挨拶もちゃんとする様になる。おもいやりの心が、うやまいあいの心が、なかったら世の中、美しくも豊かにも、楽しくもなりはしません。

そのおもいやりの心の心が自づと姿かたちに表はれて始めて礼儀、礼節というものでわね礼儀、礼節の姿かたちを通して更に豊かな、あたたかいおもいやり、うやまいあいの心が人の気持の中に養はれて行くというものでございませう。

形が心をやしない、心が形をつくって行く。形と心の調和が向上して行く姿の状態を、なづけてそれを文化と申すのであります。

今日家庭生活の中に、神棚や仏壇を置くことを怠っている家庭がとても多くあります。テレビ、センタク機等、生活に便利、楽しみを与える物面についてはあらゆる創意工夫を働かすけれども、心的な面はなほざりにしかえりみない。そこに物的な面と心的な面の調和のくづれが先づ家庭生活の中が、物に栄えて、心で亡びた、大きな原因をなしているんです。

挨という字も、拶という字も心と心がふれあうという意味の字なんです。挨拶というものは、心の窓が開いて、お互心と心が、あたたかく、かよい合うということです。そうゆう挨拶のある家庭と職場を社会を。挨拶のない家庭と職場と社会とがあったときに、自分の子供や孫や、ひ孫を住まわせるのに、どちらが願はしい、望ましい、好ましい、家庭であり、職場であり、社会であろうかと考えたとき、朝晩の親子の挨拶は、それはあたたかい世作りの基本であるということをお忘れにならぬ様、お願ひ申上げます。

般若心経の精神、教えの精随はこれだという言葉がお経の最後に出てまいります。それ

ギヤティギヤティ ハラギヤティ ハラソウギヤティ
は「羯諦羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦」
の語です。その意味は、
「行こう行こう さあ行こう みんなで行こう 幸せの国をつくりませう 幸せになろう」ということです。

自分一人が幸せになればそれでいいのだと
いうのは利己主義です。エゴイズムは人々を
不幸せにするばかりでなく、自分自身をも破滅の道におとしいれる恐しい道であります。

人さまが、世間さまが幸せになって下さる
お手伝いを喜んでさせていただくその行いを
波羅蜜の行と申します。この波羅蜜の行の完
成した世界を波羅蜜多の世界といいます。波
羅蜜の行を実践する人が菩薩です。ですから
私どもが願う幸せの国です。

ですから 獢諦羯諦 波羅羯諦 波羅
僧羯諦 はみんなで力を合わせ、心を合わせて、
幸せの国をつくろう、みんなで幸せの國
え行きましょうという言葉であります。これが般若心経の精神であります。

「かたよらない心、こだわらない心、とらわ
れない心、広く広くもっと広く これが般
若心経 空の心より」

「羯諦羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦」

「諸人よ、思ひ知れかし 己が身の
誕生の日は 母苦難の日」

「千度戦場に出でて、千人の敵に打ち勝つよ
りも、自分一人で打勝つものこそ、最上の
戦士なり」

記念誌 編集委員

中林、武藤、戸田(裕)、
浜田、田辺、内野、松波

